

平成 21 年度決算に係る

定期監査  
決算審査  
調査  
調書

平成 22 年 4 月

農林水産部農林総合研究所  
園芸試験場

目 次

1	前年度指摘事項に対する措置等	1 頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
	(3) 決算審査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1 頁
3	組織及び業務調べ	1 頁
4	職員の定員、現員調べ	1 頁
5	役付職員の調べ	1 頁
6	主な事業に関する調べ	2 頁
7	決算調書（総括表）	5 頁
8	事業別実施状況調べ	6 頁
9	予備費の充用調べ	7 頁
10	繰越関係調べ	7 頁
	(1) 継続費通次繰越調べ	
	(2) 繰越明許費調べ	
	(3) 事故繰越調べ	
11	収入証紙取扱額調べ	8 頁
12	収入事務処理状況調べ	8 頁
	(1) 分担金及び負担金	
	(2) 使用料	
	(3) 手数料	
	(4) 財産収入	
	(5) 寄付金	
	(6) 諸収入	
13	税外収入未済額調べ	9 頁
14	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	10 頁
15	税外収入不納欠損額調べ	10 頁
16	債務負担行為の状況調べ	10 頁
17	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	11 頁
	(1) 負担金	
	(2) 補助金	
	(2-2) 補助金（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	
	(3) 交付金	
	(4) 委託料	
	(4-2) 委託料（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	
18	工事請負費調べ	14 頁
18-2	工事請負費調べ（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	14 頁
19	財産に関する調べ	15 頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の受払状況	
	(3) 基金	
	(4) 債権	
20	財産の貸付及び使用許可調べ	18 頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品（1品の取得価格が100万円以上のもの）	
21	借受不動産明細調べ	19 頁

22	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	19頁
	(1) 職員住宅	
	(2) 職員駐車場	
23	自動車（二輪を除く）の管理状況調べ	21頁
24	寄附物件の受納状況調べ	21頁
25	備品の処分状況調べ	21頁
26	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	21頁
27	貸付金等状況調べ	21頁
	(1) 総括表	
	(2) 償還状況	

農林総合研究所園芸試験場
--------------

個別様式

28	事業別予算執行状況調べ	22頁
29	農業機械の管理状況	23頁
30	生産物（品）に関する調べ	25頁
31	試験研究調査事業別実施状況調べ	28頁
	○意見、要望等	

1 前年度指摘事項等に対する措置等

- (1)指摘事項 該当なし
- (2)監査意見 該当なし
- (3)決算審査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘含む。)に対する処理状況 該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係(担当)名	課の主な所掌事務
園芸試験場	果樹研究室	果樹の育種及び栽培に関すること。
	野菜研究室	野菜の育種及び栽培に関すること。
	花き研究室	花きの育種及び栽培に関すること。
	環境研究室	果樹・野菜・花きの病害虫に関すること。
	生物工学研究室	特産園芸作物を対象としたバイオテク手法による新品種育成に関すること。
	砂丘地農業研究センター	ラッキョウ・ウドウ・ナカイモの栽培技術改善に関すること。
	弓浜砂丘地分場	白ネギ等特産野菜の品種選定と育種及び栽培技術の改善に関すること。
	河原試験地	カキの品種選定と育種及び栽培技術の改善に関すること。
	日南試験地	中山間地の特産野菜や花きの品種選定と栽培技術の改善に関すること。

4 職員の定員、現員調べ

(平成22年4月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	当該年度	21.4.1 現在	当該年度	21.4.1 現在	当該年度	21.4.1 現在	当該年度	21.4.1 現在	
定員	0	0	35	35	16	17	51	52	
現員	0	0	35 (6)	35 (6)	16	17	51 (6)	52 (6)	病害虫防除所兼務
過不足(△)	0	0	0	0	0	0	0	0	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	1	1	0	0	46	45	47	46	農業技術員46名 一般事務 1名

5 役付職員の調べ

(平成22年4月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
場長	村田 諫司	年	0月	
次長	片山 純一	年	0月	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概要
<p>有機・特別栽培支援技術の確立</p> <p>決算(見込)額</p> <p>1,358千円</p> <p>(財源内訳)</p> <p>受託収入 676千円</p> <p>一般財源 682千円</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的</p> <p>消費者の「安全・安心」志向の高まりから、有機・特別栽培農産物の需要は多いが、有機・特別栽培では化学農薬の利用が制限されることから、園芸作物における有機・特別栽培の取り組みは稲等に比べ遅れている。そこで、化学農薬に替わる防除技術を確立し、有機・特別栽培農産物の拡大を図る。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナシのハダニ類に対し、有機・特別栽培で利用可能なマシン油乳剤の効果的な利用時期について検討を行った。</li> <li>・スイカ、ホウレンソウの輪作体系において、アブラナ科作物を利用した生物的土壌くん蒸技術を検討した。</li> <li>・イチゴ栽培において、天敵を利用した防除体系の実用性について検討を行った。</li> <li>・ホウレンソウのホウレンソウケナガコナダニに対し、発生を助長しない有機物や太陽熱土壌消毒の効果について検討を行った。</li> </ul> <p>イ 平成21年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規事業のため特になし。</li> </ul> <p>ウ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナシのクワオオハダニ越冬卵に対し、マシン油乳剤の散布は秋期より春期の方が効果が高く、生育期の成虫密度も低減できることを明らかにした。</li> <li>・スイカの土壌病害に対し、アブラナ科作物のカラシナ、ブロッコリー残渣を利用した生物的土壌くん蒸は、化学農薬と同程度の防除効果が認められた。</li> <li>・2種類の天敵ミヤコカブリダニとチリカブリダニを利用した防除体系によって、慣行の化学農薬防除に比べ、イチゴのハダニ類を低密度に保つことができた。</li> <li>・魚粕、牛糞堆肥はホウレンソウケナガコナダニの発生を助長しない傾向がみられた。</li> </ul> <p>エ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナシにおける性フェロモンを利用した減農薬防除体系では、これまで問題となっていなかったマイナー害虫の発生が増加するため、これらマイナー害虫の防除対策の確立に取り組む。また、微生物資材を利用した殺菌剤の削減にも取り組む。</li> <li>・スイカ、ホウレンソウ輪作体系における、アブラナ科作物を利用した生物的土壌くん蒸技術では、カラシナ、ブロッコリー残渣の最適な鋤込み量、処理期間について検討する。</li> <li>・ホウレンソウケナガコナダニに対し、有機物、太陽熱土壌消毒、化学薬剤の利用を含めた防除体系の確立に取り組む。</li> </ul>

6 主な事業に関する調べ

事業名	概要
<p>特産砂丘ナガイモ産地 存亡に係る生産安定技 術の確立</p> <p>決算見込額</p> <p>1,600千円</p> <p>(財源内訳)</p> <p>一般財源</p> <p>1,600千円</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア)目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸試験場が育成した新品種の‘ねばりっ娘’は、普通ナガイモより粘りが強い ため、消費者の評価が高く、収益性のある作目となっている。</li> <li>・しかし、‘ねばりっ娘’は、普通ナガイモのように切り芋での栽培が出来ず、ムカ ゴから栽培し出荷までに3年が必要であること、ムカゴの着生が少ないこと、ムカ ゴから出荷する芋にする効率が低いことが面積拡大の大きな障害となってきた。</li> <li>・そこで、‘ねばりっ娘’の栽培特性を解明するとともに栽培効率の向上、栽培期 間の短縮、病虫害防除法の確立を行う。また、近年黒陥没症障害が品質低下の 要因となっており、その発生防止策を確立する。</li> </ul> <p>(イ)事業の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・‘ねばりっ娘’好適栽培法の開発のため、栽培特性調査、頂芽利用法の検討を行 った。 (センターほ場5a)。</li> <li>・環境負荷低減技術の確立のため、低コスト肥料の検討、肥料溶脱調査を行 なった。 (センターほ場5a)。</li> <li>・障害芋の発生要因と対策、発生時期の調査を行った。</li> </ul> <p>イ 平成21年度実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・‘ねばりっ娘’の生育の推移を調査し、栽培特性を調査した。</li> <li>・砂丘ナガイモにおいて、環境負荷の指標である硝酸態窒素の地下水への流亡 量を測定し環境負荷の少ない施肥法について検討した。</li> <li>・品質低下に直結する黒陥没障害の発生時期について検討した。</li> </ul> <p>ウ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・‘ねばりっ娘’は、小芋重が重くなるほどまた、株間が広がるほど、収穫できる 成芋が大きくなり、小芋重100g以上を使用することで、1kg以上の成芋が収穫 可能なことが明らかになった。</li> <li>・栽培期間が短縮できる頂芽利用方法は、重さ30g以上の頂芽を定植まで乾燥 しないように保存することで、出芽率80%以上を確保でき、実用性があると考え られた。</li> <li>・硝酸態窒素の地下水への流亡量は生育後半の8月下旬に多く、特に稲わらや 堆肥などの有機物を連用することで高まった。</li> <li>・黒陥没障害は7月から8月にかけての低温、多雨により発生したが、9月から平 年並みの天候になったため症状は進行しなかったと考えられた。</li> </ul> <p>エ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頂芽利用の効率向上のため、頂芽の長期間貯蔵法の検討を行う。</li> <li>・肥料成分流亡が多い砂丘地における有機物連用による効率的な施肥法の検 討を行う。</li> <li>・‘ねばりっ娘’の生育特性の解明のため、施肥時期別の品質調査を行う。</li> <li>・省力化のため栽培作業の機械化について検討を行う。</li> </ul>

6 主な事業に関する調べ

事業名	概要
<p>市場競争力のある鳥取オンリーワン園芸品種の育成</p> <p>決算(見込)額 1,330千円 (財源内訳) 一般財源 1,330千円</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア)目的 ・本県特産の園芸作物は産地間競争が激化するなか、独自品種による高品質・生産安定が急務となっている。そこで、本県産園芸作物のブランドアップと栽培が簡素化できる本県独自の優良品種を育成し、生産者所得の向上と鳥取県園芸の発展に資する。</p> <p>(イ)事業実施の状況 ・ナシ、カキ、ブドウ、スイカ、シバ、イチゴ、実付き枝ものについて優良品種の育成、選抜を行った。</p> <p>イ 平成21年度実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <p>・新たに品種登録した甘カキ‘輝太郎’の特性を重点的に調査した。</p> <p>ウ 成果</p> <p>・9月下旬に収穫可能な早生の甘カキ‘輝太郎’を平成22年3月に品種登録した。</p> <p>・実付きの良い「ノイバラ」「ツルウメモドキ」を育成し、品種登録の準備が完了した。</p> <p>・病気に強く、根張りの良いノシバ「グリーンバードJ」を品種登録申請した。</p> <p>エ 課題</p> <p>・ナシについては8月上旬に収穫できる高品質な早生品種を早急に育成する必要がある。</p> <p>・新品種甘カキ‘輝太郎’は空洞果の発生が見られるため、この軽減対策を検討する。</p>

7 決算調書  
(総括表)一般会計

(平成22年1月31日現在)  
(単位:円)

区分	科目	予算現額					計 A	支出済額 B	翌年度 繰越額 C	差引増減額 A-B-C	備考
		当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減						
歳出	農業総務費	7,833,000	13,345,000	0	0	21,178,000	17,209,614	0	3,968,386		
	農業改良普及費	61,362,000	0	0	0	61,362,000	9,006,451	0	52,355,549		
	農業試験場費	72,722,000	85,696,000	0	0	158,418,000	25,071,647	0	133,346,353		
	園芸試験場費	167,225,000	17,597,000	0	0	184,822,000	61,207,612	0	123,614,388		
	畜産試験場費	119,999,000	14,225,000	0	0	134,224,000	75,759,556	0	58,464,444		
	中小家畜試験場費	68,382,000	0	0	0	68,382,000	37,960,485	0	30,421,515		
	林業振興費	9,316,000	0	0	0	9,316,000	1,332,090	0	7,983,910		
	林業試験場費	58,091,000	50,498,000	0	0	108,589,000	44,460,209	0	64,128,791		
	合計	564,930,000	181,361,000	0	0	746,291,000	272,007,664	0	474,283,336		
		農林水産業使用料	0	0	0	0	0	13,740	0	▲ 13,740	
上記財源内訳	行政財産使用料	0	0	0	0	0	872,565	0	▲ 872,565		
	農林水産業手数料	3,106,000	0	0	0	3,106,000	102,720	0	3,003,280		
	農業水産業費国庫補助金	22,147,000	112,312,000	0	0	134,459,000	11,520,000	0	122,939,000		
	農業水産業費委託金	1,049,000	0	0	0	1,049,000	1,957,000	0	▲ 908,000		
	財産貸付収入	277,000	0	0	0	277,000	22,158	0	254,842		
	生産物売払収入	44,142,000	0	0	0	44,142,000	45,205,629	0	▲ 1,063,629		
	家畜類売払収入	42,441,000	0	0	0	42,441,000	46,910,099	0	▲ 4,469,099		
	地域活性化・生活対策臨時交付金基金繰入金	0	28,531,000	0	0	28,531,000	0	0	28,531,000		
	農薬等検定受託事業収入	15,170,000	0	0	0	15,170,000	4,510,000	0	10,660,000		
	農林水産研究高度化事業受託収入	7,122,000	0	0	0	7,122,000	10,278,000	0	▲ 3,156,000		
内訳	プロジェクト研究受託事業収入	1,000,000	0	0	0	1,000,000	1,000,000	0	0		
	肥育技術実証試験受託事業収入	544,000	0	0	0	544,000	544,000	0	0		
	森林総合研究所受託事業収入	0	1,500,000	0	0	1,500,000	1,500,000	0	0		
	森林・食品産業技術総合研究機構受託事業収入	0	1,755,000	0	0	1,755,000	0	0	1,755,000		
	国立大学法人鳥取大学受託事業収入	0	2,950,000	0	0	2,950,000	0	0	2,950,000		
	関西地区林業協議会受託事業収入	0	2,040,000	0	0	2,040,000	2,040,000	0	0		
	雑入	708,000	0	0	0	708,000	600,853	0	107,147		
	小計	137,706,000	149,088,000	0	0	286,794,000	127,076,764	0	159,717,236		
	一般県費充当	427,224,000	32,273,000	0	0	459,497,000	144,930,900	0	314,566,100		
	合計	564,930,000	181,361,000	0	0	746,291,000	272,007,664	0	474,283,336		

8 事業別予算執行状況調べ

(平成22年1月31日現在)

(単位:円)

事業名	予算令達額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	事業の計画と実績・成果
<b>(農業総務費)</b>					
農林水産部管理運営費	20,000	20,000	0	0	新規採用職員宿泊研修に参加
先端的農林水産試験研究 推進強化事業費	696,105	696,105	0	0	作物別研究会を開催し農家(委員として参加)が生産現場で抱える課題、問題点を把握し、今後取り組む課題の検討や得られた研究成果に対する評価を得る。
農林水産試験場臨時的調査研究事業	166,945	166,945	0	0	年度中途に発生した現地ニーズ、緊急を要する試験研究への迅速な対応を行う。 (実施課題) ・鳥ニンニクにおける弱毒ウイルス実用化のための強毒ウイルス感染状況調査
目 計	883,050	883,050	0	0	
<b>(園芸試験場)</b>					
管理運営費	94,366,000	19,334,767	0	75,031,233	園芸試験場の管理運営を行った。
園芸試験場ふれあいセミナー	1,097,000	1,097,000	0	0	園芸試験場の試験研究成果及び実施状況を広く県民の方に公開するためのセミナーを開催し
試験研究費	56,614,000	33,162,400	0	23,451,600	「系統適応性検定試験」他30事業を行った。 「31 試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載。
施設整備費	27,702,000	4,500,300	0	23,201,700	園芸試験場の施設整備を行った。
バイオテクノロジー管理運営費	1,610,000	1,207,500	0	402,500	バイオテクノロジー研究施設に関する管理運営を行った。
バイオテクノロジー施設整備費	3,433,000	1,905,645	0	1,527,355	バイオテクノロジー研究施設の施設整備を行った。
目 計	184,822,000	61,207,612		123,614,388	
計	185,705,050	62,090,662	0	123,614,388	

9 予備費の充用調べ 該当なし

10 繰越関係調べ

(1) 継続費通次繰越調べ 該当なし

(2) 繰越明許費調べ

(単位:円)

科目	事業名	金額	翌年度繰越額 (繰越申請額)	左の財源内訳			繰越理由	
				既収入特定財源	未収入特定財源	その他		
				国庫支出金				
園芸試験場費	園芸試験場施設整備費	12,974,000	12,974,000				12,974,000	22年度前倒しによる
	園芸試験場バイオテクノロジー施設整備費	1,515,000	1,515,000				1,515,000	22年度前倒しによる
合 計		14,489,000	14,489,000				14,489,000	

(3) 事故繰越調べ 該当なし

11 収入証紙取扱額調べ

該当なし

12 収入事務処理状況調べ

(1) 分担金及び負担金

該当なし

(2) 使用料

(平成22年1月31日現在)

(単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
使用料	行政財産使用料		10	90,110	90,110	0	0	鳥取県行政財産使用料条例	
	計(節)		10	90,110	90,110	0	0		
合計			10	90,110	90,110	0	0		

(3) 手数料 該当なし

(4) 財産収入

(平成22年1月31日現在)

(単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
生産物売 払収入	生産物売払収入		186	17,346,293	17,346,293	0	0	農林水産関係 試験研究機関 等における生産 品事務取扱要 領	
		計(節)	186	17,346,293	17,346,293	0	0		
合 計			186	17,346,293	17,346,293	0	0		

(5) 寄付金 該当なし

(6) 諸収入

(平成22年1月31日現在)

(単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
雑 入	雑 入	預金利息	3	106	106	0	0		
		過年度分精算金	2	143,115	143,115	0	0		
		自動販売機電気 代、手数料	6	88,607	88,607	0	0		
		原稿執筆料	6	74,100	74,100	0	0		
		出荷奨励金精算	1	20,836	20,836	0	0		
		工事に伴う電気 代	2	1,414	1,414	0	0		
		鉄屑売上代	2	22,680	22,680	0	0		
		計(節)	22	350,858	350,858	0	0		
目 計			22	350,858	350,858	0	0		
合 計			22	350,858	350,858	0	0		

13 収入未済額調べ 該当なし

14 未収金回収促進のための取り組み状況調べ

該当なし

15 不納欠損額調べ

該当なし

16 債務負担行為の状況の調べ

(平成22年1月31日現在)  
(単位:円)

事業名	種別	設定状況			該当事業の 契約額等	執行状況				合計 A+B	備考	
		議決	期間	限度額		設定年度 の執行額 A	債務負担行為の期間					計 B
							20年度までの 執行額	21年度執行額	22年度以降の 執行予定額			
平成21年度 園芸試験場施設管理等 業務委託	委託料	H20年12月	H21年度から H23年度まで	3,747,000	円	0	1,152,843	2,896,433	円	円	4,049,276	

17 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(平成22年1月31日現在)

(1) 負担金

予算科目(目)	予算令達	負担金の名称	支出先	負担率	(支出年月日) 支出金額	支出の根拠法令等 (規約、要領等を含む)	備考
園芸試験場費	円 1,740,000	中海干拓地弓浜工 区賦課金	米川土地改良 区理事長	定額	(21.6.30外) 435,290	米川土地改良区 定款	
		北条砂丘土地改良 区賦課金	北条砂丘土地 改良区理事長	定額	(21.7.31外) 303,480	北条砂丘土地改良 区定款	
		大栄町土地改良区 賦課金	大栄町土地改 良区理事長	定額	(21.7.31外) 973,386	大栄町土地改良区 定款	
支出金額が10万円未満の もの			件 5	(21.5.29外) 25,500			
小計	1,740,000				1,737,656		
合計	1,740,000				1,737,656		

(2) 補助金

該当なし

(2-2) 補助金(他課から予算の配当替えを受けて執行するもの)

該当なし

(3) 交付金

該当なし

(4)委託料

平成22年1月31日現在

予算科目 (目)	国補 単 の別	委託料の名称	委託契約の相手方	当初契約			入 札 年 月 日 (契約保証金 納付等年月日)	等 日	支出の状況			備考	
				予定価格	契約年月日 契約額	契約 期 間			完了年月日 履行検査 年月日	支出 年 月 日	金額		支出 区 分
園芸試験場費	単県	鳥取県農林水産部農林総合 研究所園芸試験場施設整備 業務	鳥取市南安長1-1-2 山陰整備保障(株)	982,800	(H21.4.1) 597,240 (H21.5.15) 1,213,928	H21.4.1~ H24.3.31	H21.3.24 (免除) 指	H21.4.30外 H21.5.1外	H21.5.12外	284,048	精算	H21~H23年度 債務負担行為 年額 387,368円	
	単県	鳥取県農林水産部農林総合 研究所園芸試験場砂丘地農 業研究センター施設整備業務	鳥取市南安長1-1-2 山陰整備保障(株)	491,400	(H21.4.1) 336,420	H21.4.1~ H24.3.31	H21.3.24 (免除) 指	H21.4.30外 H21.5.1外	H21.5.12外	84,105	精算	H21~H23年度 債務負担行為 年額 112,140円	
	単県	鳥取県農林水産部農林総合 研究所園芸試験場弓浜砂丘 地分場施設整備業務	松江市袖師町9-35 北陽整備保障(株)	340,200	(H21.4.1) 314,874 (H21.5.15) 769,392	H21.4.1~ H24.3.31	H21.3.24 (免除) 指	H21.4.30外 H21.5.1外	H21.5.12外	178,020	精算	H21~H23年度 債務負担行為 年額 243,732円	
	単県	鳥取県農林水産部農林総合 研究所園芸試験場河原試験 地施設整備業務	鳥取市南安長1-1-2 山陰整備保障(株)	491,400	(H21.4.1) 359,100 (H21.5.15) 540,478	H21.4.1~ H24.3.31	H21.3.27 (免除) 指	H21.4.30外 H21.5.1外	H21.5.12外	129,403	精算	H21~H23年度 債務負担行為 年額 175,078円	
	単県	自家用電気工作物保安管理 業務委託(本場・生工研)	「個人」	1,108,800	(H21.4.1) 1,108,800	H21.4.1~ H24.3.31	H21.3.24 (免除) 指		H21.5.29	369,600	前払	H21~H23年度 債務負担行為 年額 369,600円	
	単県	自家用電気工作物保安管理 業務委託(弓浜)	「個人」	327,000	(H21.4.1) 323,000	H21.4.1~ H24.3.31	H21.3.24 (免除) 指		H21.5.29	107,667	前払	H21~H23年度 債務負担行為 年額 107,667円	
	単県	培養室2号機冷却機の保守業 務	鳥取市商業町25-1番地13 鳥取科学器械(株)	562,000	(H21.6.10) 551,250	H21.6.10~ H21.7.10	H21.5.18 (免除) 指	H21.7.7 H21.7.10	H21.7.28	551,250	精算		

予算科目 (目)	国 道 の 別	委託料の名称	委託契約の相手方	当初契約			入札 年月日		支出の状況			備考			
				予定価格	(契約年月日) 契約額	委 期	託 期	年 月 日	年 月 日	支 出 日	支 出 日		金額		
														変更契約(最終) (契約年月日) 契約額	履行検査 年月日
国 道 試 験 場 費	県 道	ラッキョウ栽培委託業務	「個人」	450,959	(H21.4.1) 450,959	H21.4.1~ H22.3.31	H21.3.31 (免除)	H21.3.31 (免除)							
				330,120	(H21.9.17) 311,535	H21.9.17~ H21.10.23	H21.9.15 (免除)	H21.10.21 H21.10.23					311,535		
予 定 価 格 が 20 万 円 未 満 の もの	県 道	産業廃棄物処理委託	東伯郡琴浦町赤崎1986 の2 (有)赤崎清掃	(廃プラスチック類) 6,142円/m3 (可燃類) 6,930円/m3	(H21.6.1) 単価契約 1,050円/m3	H21.6.1~ H22.3.31	H21.5.29 (免除)	H21.8.26外 H21.8.26外					42,000		
目 計		8件											571,755		
合 計		12件											2,629,383		
合 計		20件											2,629,383		

(4-2)委託料(地課から予算の配当替えを受けて執行したもの)

該当なし

18 工事請負費調べ

(平成22年1月31日現在)

予算科目 (目)	国 道 の 別	工 事 名	当初契約				入 年 (契約保証金 納付等年月日)	請 負 人	支出の状況			地 成 日 査	変更(解除)の 理由・内容	備 考
			(起工年月日)(契約年月日)		工期				年月日	金額	年月日			
			設計額	契約額	変更契約(最終)	契約形態								
園芸試験場費	単 県	ブドウ連棟ハ ウス被覆フィ ルム張替工事	(H21.10.5)	(H21.10.21)	H21.10.21~	H21.10.20	(株)松本鉄工所	完	H21.12.8	1,744,050	H21.11.20			
			1,744,050	1,564,500	H21.11.20	(H21.10.21)								H21.11.25
目計			(H21.11.5)	(H21.11.6)	~	随				1,744,050				
合計										1,744,050				

18-2 工事請負費調べ(他課からの配当替えを受けて執行したもの)  
該当なし

19 財産に関する額へ

(1)公有財産

ア 土地

(平成22年1月31日現在)

行政・普通 財産の区 分	機関又は施設の名称	所在地	前年度末		増減別	異動日	本年度異動状況				備考	
			面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)			面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	増減理由	登記年月日		面積(m <sup>2</sup> )
行政財産	(本場) 敷地・畑・道路	(北栄町由良宿字上ノヲノヲ2048外)	204,353.91		増加	H				204,430.91		
					減少	H						
	(砂丘地農業研究センター) 敷地・道路	(北栄奈町田井字沖浜527外)	9,881.00		増加	H				9,881.00		
					減少	H						
	(倉吉ほ場) 敷地・畑・道路	(倉吉市大谷茶屋イザ原883外)	34,465.72		増加	H				34,465.72		
					減少	H						
(弓浜砂丘地分場) 畑・宅地	(境港市大字中海干拓地15外)	29,018.52		増加	H				29,018.52			
				減少	H							
小計	(河原試験地) 敷地・道路	(鳥取市河原町大字佐貫字丸橋 527)	1,545.11		増加	H				1,545.11		
					減少	H						
小計			279,264.26							279,341.26		
普通財産	(倉吉ほ場) 敷地・畑・道路	(倉吉市大谷茶屋イザ原883-39外)	3,001.32		増加	H				3,001.32		
					減少	H						
小計			3,001.32							3,001.32		
合計			282,265.58							282,342.58		

イ 建物

(平成22年1月31日現在)

行政・普通 財産の区 分	機関又は施設の名称	所在地	前年度末		本年度異動状況						差引		備考		
			面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	増減別	異動日	面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)			
														増加	減少
行政財産	(本場) 機械格納庫外	(北栄町由良宿)	5,469.84		増加	H									
					減少	H							5,469.84		
本場計	(西園ほ場) 管理器材庫外	(北栄町西園)	252.00		増加	H									
					減少	H							252.00		
本場計			5,721.84												
													5,721.84		
行政財産	(倉吉ほ場) 本館外	(倉吉市大谷茶屋)	2,078.49		増加	H									
					減少	H							2,078.49		
本場計	(弓浜砂丘地分場) 本館外	(境港市中海干拓地)	849.47		増加	H									
					減少	H							849.47		
本場計	(河原試験地) 本館外	鳥取市河原町佐賀	413.37		増加	H									
					減少	H							413.37		
本場計	(砂丘地農業研究センター) 本館外	(北栄町田井)	436.79		増加	H									
					減少	H							436.79		
本場計	(日南試験地) 本館外	(日南町阿毘縁)	404.12		増加	H									
					減少	H							404.12		
合計			9,904.08												

ウ 山林	該当なし
エ 不動産売却等	該当なし
オ 財産の交換	該当なし
カ 動産(船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機)	該当なし
キ 物件	該当なし
ク 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案権)	該当なし
ケ 有価証券	該当なし
コ 出資による権利	該当なし

(2) 金券類の受払状況

(平成22年1月31日現在)

種 別	前年度末	本年度中		差 引	備 考
		購入額	使用額		
郵便切手類	円 347,165	円 32,800	円 99,780	円 280,185	
印紙類	0	0	0	0	
合 計	347,165	32,800	99,780	280,185	

(3) 基 金

(4) 債 権

(平成22年1月31日現在)

債権の名称	前年度末		本年度中				差 引		備考
			増		減				
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
行政財産使用料	8	194,570	2	76,880	2	70,700	8	200,750	
合 計	8	194,570	2	76,880	2	70,700	8	200,750	

20 財産の買付及び使用許可課へ  
 (1) 土地及び建物  
 ア 土地

行政・普通財産の区分	買付 (使用許可) 目的	所在地	数量又は面積	買付 (使用許可) 年月日	当初買付 (使用許可) 年月日	買付 (使用許可) 期間	買付(使用)料(円)		備考
							単価	本年度の 買付(使用)料	
行政財産	電力供給施設	本場 北条町由良宿	電柱 2本 支柱 2本 支線 7条	H.21.1.13	S.53.10.16	H.21.4.1 ~ H.26.3.31	19,030	19,030	倉吉市駄登寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 樋田 宏治
	"	"	電柱 6本 支柱 1本 支線 2条	H.20.3.31	S.63以前	H.20.4.1 ~ H.25.3.31	15,570	15,570	倉吉市駄登寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 中原 福孝
	"	"	支線 2条	H.19.4.24	H.14.4.18	H.19.4.1 ~ H.24.3.31	3,460	3,460	倉吉市駄登寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 中原 福孝
	電気通信施設	"	電柱 5本 支柱 1本 支線柱 1本 支線 5条	H.19.4.24	H.9.4.1	H.19.4.1 ~ H.24.3.31	20,760	20,760	鳥取市湯所町2-258 西日本電信電話(株) 鳥取支店長 羽島 祐司
	米倉用	"	自動販売機 1台	H.21.4.2	H.21.4.2	H.21.4.3 ~ H.24.3.31	380	380	鳥取市緑ヶ丘2丁目867-14 (株)芦穂 代表取締役 芦穂 銀久
	電力供給施設	西園ほ場 北条町西園	支線 1条	H.17.8.15	H.17.8.15	H.17.8.15 ~ H.22.3.31	1,730	1,730	倉吉市駄登寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 中原 福孝
	"	砂丘地農業研究センター 北条町田井	電柱 1本	H.20.3.31	H.20.3.31	H.20.4.1 ~ H.25.3.31	1,500	1,500	倉吉市駄登寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 中原 福孝
	"	砂丘地農業研究センター 北条町田井	電柱 2本	H.20.3.31	H.20.3.31	H.20.4.1 ~ H.25.3.31	3,460	3,460	倉吉市駄登寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 中原 福孝
	"	倉吉ほ場 倉吉市大谷茶屋	電柱 6本 支柱 1本 支線 3条	H.17.3.7	H.3.1.9	H.17.4.1 ~ H.22.3.31	17,300	17,300	倉吉市駄登寺町245-6 中国電力(株) 倉吉営業所長 中原 福孝
	電力供給施設	弓浜砂丘地分堀 境港市中海干拓地	電柱 3本 支線 1条	H.19.4.24	H.14.4.18	H.19.4.1 ~ H.24.3.31	6,920	6,920	米子市加茂町2丁目51番地 中国電力(株) 米子営業所長 衣藤 英雄
計							90,110		
普通財産									
計									
合計								90,110	

イ 建物 該当なし

(2) 物品 該当なし

21 借受不動産明細調べ

(平成22年1月31日現在)

区分	種別	借受 (使用目的)	所在地	敷 又 積 面 積	契約書の有無	契約の状況			借料(円)		借受先 住 氏 名	備考
						借 期	家 間	単 価	本年度の借料	借受先		
(河原試験地)	山林・畑	ほ場用地	鳥取市河原町佐賀字丸橋574	7,608.00	有	S30.12.10 ～	無料	無料	無料		鳥取市	
土地	畑	ほ場用地	鳥取市河原町佐賀字狭間1827-1外	12,628.00	有	H.18.3.22 ～ H.20.3.21	無料	無料	無料		鳥取市	
土地	田	ほ場用地	鳥取市河原町佐賀字岡崎122-2外	3,305.00	有	H.4.4.1 ～ H.22.3.31	79,320	79,320	79,320		鳥取市	
土地	畑	河原試験地 試験駐車場 用地	鳥取市河原町佐賀字岡橋532	451.90	有	H.17.5.1 ～ H.22.3.31	21,691	21,691	21,691		(個人)	
(本場)	田	ほ場用地	八頭郡八頭町大字山田字八幡前222-1,2,3	2,564.00	有	H.12.4.1 ～ H.22.3.31	51,280	51,280	51,280		(個人)	
土地	山林	排水施設用 地	京伯郡北米町由良宿字上/7772040-3外	146.00	有	H.20.4.1 ～ H.22.3.31	3,285	3,285	3,285		(個人)	
(日南試験地)	畑・田	日南試験地 用地	日野郡日南町阿曇森字ヒヤケ田1203-1外	17,157.61	有	S.57.4.1 ～ H.24.3.31	無料	無料	無料		日南町	
合計				20,319.51					155,576			

22 職員住宅及び職員駐車場の管理状況照調べ

(1) 職員住宅 該当なし

(2)職員駐車場

ア 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積(m <sup>2</sup> )	貸付(使用)料(月額)(円)
行政財産	本場 (東伯郡北栄町由良宿2048)	12.5	0
	生物工学研究室 (倉吉市大谷茶屋883-35)	12.5	0
	砂丘地農業研究センター (東伯郡北栄町田井529)	12.5	0
	弓浜砂丘地分場 (境港市中海干拓地27)	12.5	0
	河原試験地 (鳥取市河原町佐貫527)	12.5	0
	日南試験地 (日野郡日南町阿毘緑1203-1)	12.5	0
普通財産			

イ 異動状況

(行政・普通財産)

月別	月初日	減		増		月末日		調定額	収入済額	収入未済額
		うち減免	うち減免	うち減免	うち減免					
	人	人	人	人	人	人	人	円		
4月	94					94	94	0		
5月	94					94	94	0		
6月	94			1	1	95	95	0		
7月	95					95	95	0		
8月	95					95	95	0		
9月	95					95	95	0		
10月	95					95	95	0		
11月	95					95	95	0		
12月	95					95	95	0		
1月	95					95	95	0		
2月							0	0		
3月							0	0		
合計								0	0円	0円

23 自動車(二輪を除く)の管理状況

(平成22年1月31日現在)

車種	年式	登録番号	取得年月日	総走行キロ数 km	本年		修理費等 円	修理の主な内容	備考
					稼働日数	(1ヶ月平均)走行キロ数			
普通貨物 (本場) ヒノ	3	鳥取11 せ 31-61	H37.31	99,369	60	(271) km 2712	75,181	車検 オイル調整他 ワイブスタンプ取替他	48,521 18,060 8,600
小型貨物 (弓浜砂丘地分場) いすゞ	10	鳥取45 そ 57-47	H10.24	37,535	119	(418) 4186	90,284	車検 オイル調整他	78,314 11,970
合計		2台					165,465		

24 寄附物件の受納状況調べ  
該当なし

25 備品の処分状況調べ  
該当なし

26 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

現金、有価証券 又は物品名	数量	金額 円	出納員又は 使用者氏名	亡失、損傷 年月日、時	同左場所	同左概要	報告年月日	会計局の 審査結果
公用車	1	7,875	分場長 福本明彦	H21.6.15 午後2時ごろ	場内圃場	防風樹沿いに圃場内をバックで走行中、荷台の荷物に防風樹の枝が引っかかり、それが外れた際の反動でドアミラーの鏡部分が強打され、損傷したものを。	H21.6.22	地方自治法第243条の2の規定に該当しないと認められた
公用車	1	7,455	非常勤職員 貫川典子	H21.8.25 午後3時30分ごろ	水田圃場	公用車で重量物(土のう)を運搬して果樹棚の下に進入したところ、棚線にアンテナが引っかかって折れた。	H21.8.25	地方自治法第243条の2の規定に該当しないと認められた
公用車	1	144,344	研究員 伊藤直子	H21.10.11 午後4時10分ごろ	鳥取市伏野 国道9号線バイパス	鳥取市伏野の国道9号線バイパスを、用務先のコカ・コーラウエストスポーツパークから園芸試験場に向かうため走行していた。渋滞となり一時停止していたが、相手側よりも先に再発進しようとしたため前方車両に追突した。	H21.10.11	

27 貸付金等状況調べ  
該当なし

## 28 事業別予算執行状況調べ

目名		一般管理費		(平成22年1月31日現在)
事業名	予算令達額	支出済額	左の事業内訳	
	円	円		
	110,120	110,120	赴任旅費	
計	110,120	110,120		

目名		財産管理費		(平成22年1月31日現在)
事業名	予算令達額	支出済額	左の事業内訳	
	円	円	(事業概要)	
県有施設営繕事業	10,119,333	8,416,191	生物工学研究室菜園管理棟ドア修繕 他29箇所を修繕	
計	10,119,333	8,416,191		

目名		農業総務費		(平成22年1月31日現在)
事業名	予算令達額	支出済額	左の事業内訳	
	円	円	(事業概要)	
農林水産部管理運営費	20,000	20,000	新規採用職員宿泊研修に参加	
			(事業概要)	
先端的農林水産試験研究推進強化事業費	696,105	696,105	作物別研究会を開催し農家(委員として参加)が生産現場で抱える課題、問題点を把握し、今後取り組む課題の検討や得られた研究成果に対する評価を得る。	
			(事業概要)	
農林水産試験場臨時的調査研究事業	166,945	166,945	年度中途に発生した現地ニーズ、緊急を要する試験研究への迅速な対応を行う。	
計	883,050	883,050		

目名		農作物対策費		(平成22年1月31日現在)
事業名	予算令達額	支出済額	左の事業内訳	
	円	円	(事業概要)	
生産振興推進事業	50,000	0	農産物全般の生産振興を図るとともに、主要農作物種子の安定生産と供給及び果樹農業の振興を図るための生育状況調査を行う。	
			(事業概要)	
花き振興アクションプログラム実践事業(花ふれ愛事業)	300,000	227,712	ミニフラワーガーデン設置	
計	350,000	227,712		

目名		肥料植物防疫費		(平成22年1月31日現在)
事業名	予算令達額	支出済額	左の事業内訳	
	円	円	(事業概要)	
農薬適正使用推進事業	361,000	55,350	・農薬の適正使用を推進することにより、安心・安全な農産物の生産を支援する ・農薬取締法の規定による県の努力義務としての農薬の適正使用の指導	
			(事業概要)	
植物防疫対策事業	296,000	238,000	・精度の高い病害虫発生予察調査の実施及び情報の提供 ・病害虫の発生原因及び防除技術の確立等を行い、農作物生産者の利益向上に資する	
計	657,000	293,350		

## 29 農業機械の管理状況

(平成22年 1月31日現在)

品名	形式及び規	取得年月日	用途	稼働日数日	燃 料		修理費等円	左の主な内容円	備考
					消費量	金額円			
(本場)									
動力運搬車	ヤンマー FG-182SD	6. 4. 20	生産物運搬	43	ガソリン 54	6,555	0		
"	カワシマ EC1250	4. 6. 25	"		軽油		0		
"	チクスイ ELS-680D	8. 5. 9	"	111	ガソリン 58	7,029	103,723	後輪ミッション脱落 17,776	85,947
"	チクスイ J80DP	12. 5. 9	"	48	ガソリン 32	3,904	32,582	エアークリーナー交換 他 29,379	3,203
"	カワシマ RF4WD-DV	15. 6. 18	"	56	ガソリン 99	11,906	2,100	エアークリーナー交換 2,100	
"	カワシマ RF4WD-D	15. 6. 20	"	154	ガソリン 167.5	20,329	50,411	コンタクトパッド修理 15,645	34,766
"	ヤンマー CG-146D	6. 4. 20	"	0	ガソリン 0	0	0		
"	カワシマ ACK1820D-4WDSE	18. 6. 14	"	141	ガソリン 69.5	8,373	16,863	ブレーキワイヤー交換 他 11,760	5,103
トラクター	シバウラ ロークリアランス	62. 7. 3	圃場管理	44	軽油 129.5	9,762	2,520	アクセルワイヤー交換 2,520	
"	ヤンマー F180	4. 8. 20	"	27	軽油 78	5,731	0		
"	ヤンマー AF-30ML	6. 1. 21	"	63	軽油 140	10,378	1,575	エンジンオイル交換 1,575	
"	イセキ T6020F-V	12. 3. 15	"	74	軽油 308	23,121	62,265	タイマ修理 62,265	
"	ヤンマー 18PS AF218VPVKS4M	14. 6. 10	"	62	軽油 164	12,286	0		
"	ヤンマー 低床 RS300FKVU	14. 6. 10	"	99	軽油 123.2	9,141	0		
"	ヤンマー26PS EF326XUGKC5	15. 8. 8	"	132	軽油 567	42,055	0		
スピードスプレー	昭信 3S 4WD-10	60. 6. 22	"	18	軽油 191.8	13,971	14,438	動噴修理 11,918	2,520
"	ヤンマー YAS1000DX	7. 7. 27	"	45	軽油 268.1	19,637	0		
"	昭信 3S-FSC615	15. 4. 21	"	18	軽油 173.6	12,650	19,425	バッテリー交換 19,425	
耕耘機	サトウ KG160	51. 8. 23	耕耘・畝立	0	軽油 0	0	0		
長いも掘取機	クボタ HS-1502-6型	9. 9. 19	掘り取り	8	ガソリン 12	1,548	0		
長いも深耕機	ヤンマー NFAD8-L	16. 2. 26	深耕	0	軽油 0	0	0		
管理機	クボタ TI-55 NO.1	4. 9. 4	"	17	ガソリン 37	4,555	0		
"	クボタ TI-55 NO.2	4. 9. 11	耕耘・畝立 マルチ・播種	27	ガソリン 31.5	3,754	0		
"	イセキ KP7F6	14. 5. 13	耕耘・畝立	10	ガソリン 6	722	3,675	タイヤ調整 3,675	
草刈機	シバウラローター-E7 SM615B	3. 5. 24	草刈	8	ガソリン 6	712	0		
草刈りバインダー	クボタ RJ55-TK	17. 7. 29	草刈結束	0	ガソリン 0	0	0		
動力草刈機	大橋農機 オートモア	60. 1. 25	"	0	ガソリン 0	0	0		
草刈機	中央工業 AM61A	6. 4. 18	"	8	ガソリン 13	1,573	0		
高所作業車	共立 KCG3500SH/T	5. 5. 17	樹園地刈込	14	ガソリン 21	2,569	0		
"	共立 KCG3500H	17. 6. 9	"	11	ガソリン 12	1,512	132,300	クローラ交換 132,300	
乗用草刈機	共立 RM85B2	8. 5. 22	草刈	0	ガソリン 0	0	0		
"	オーレック RM90V	9. 8. 14	"	25	ガソリン 106	12,589	0		
"	アグリップ RM80JD	11. 2. 16	"	24	ガソリン 111	13,150	0		
"	アテックス刈馬王 R-950HA	19. 7. 4	"	19	ガソリン 133	15,678	0		
芝刈機	パロネス LM81	15. 7. 31	芝刈	17	ガソリン 21	2,522	7,350	刈り刃すり合せ 7,350	
芝用スーパー	カワシマ LS805D	14. 4. 25		18	ガソリン 37	4,433	14,070	バッテリー交換 14,070	
除雪機	ワドー SS138UH	15. 12. 16	除雪	0	ガソリン 4	504	0		

品名	形式規格	取得年月日	用途	稼働日数	燃料		修理費等	左の主な内容	備考
					消費量	金額			
(宮田農事試験場)									
トラクター	ヤンマー EF326XUQKC5	15. 9. 29	圃場管理	27	軽油	80	5,892	7,238	オイル・エレメント 7,600
動力運搬車	チクスイ ELL801	16. 6. 8	運搬	39	ガソリン	12	1,487	0	
耕耘機	ヤンマー YA-70CA	7. 8. 31	耕耘	2	軽油	3	219	0	
動力噴霧器	ATC-433M	20. 12. 3	薬散	36	ガソリン	41	4,854	0	
チップシュレッダ	共立 P-1100C	17. 8. 4	枝葉裁断	17	ガソリン	15	1,843	0	
管理機	クボタ クローラー式 TA800-SCJV	19. 9. 26	根切り 堀上	9	ガソリン	11	1,257	0	
(弓浜砂丘地分場)									
トラクター	クボタ GL32	3. 6. 29	耕耘・畝立	103	軽油	306	32,742	67,701	フロントグリル 67,701
"	クボタ GB16	9. 10. 15	"	19.5	軽油	37	3,959	0	
"	クボタ ZL2402	57. 8. 13	残渣処理	81	軽油	141	15,087	0	
ネギ定植機	OP2100	9. 10. 15	定植	0	ガソリン	0	0	0	
耕耘機	クボタ TG800	10. 3. 30	耕耘	1	ガソリン	3	435	0	
管理機	イセキ KC750F	58. 5. 20	耕耘・畝立 土壌消毒	8	ガソリン	3	158	5,282	注入器 5,282
"	エースローター AR63H	4. 2. 10	土寄せ	11	ガソリン	8.5	1,182		
ネギ管理機	アグリップ NR505N	19. 6. 1	土寄せ	180	ガソリン	68.5	9,933	12,768	チェーンワイヤー 3,150 オイル漏れ 9,618
動力運搬車	ハツタ QS40SP	59. 6. 28	運搬	0	ガソリン	0		0	
"	ヤンマー クローラー CG162	19. 6. 6	運搬・薬散	156	ガソリン	85.5	12,398	0	
(河原試験地)									
トラクター	クボタ ZL2602	57. 6. 11	耕耘	7	軽油	34	2,508	0	
動力運搬車	チクスイ ELL80IMPW	14. 5. 20	生産物運搬・ 資材運搬	102	ガソリン	44	5,417	0	
スピードスプレヤー	丸山 SSA-a601	10. 5. 28	薬散	11	軽油	107	7,847	0	
動力草刈機	スター ハンマーナイフ HFC7050	6. 9. 8	草刈	0	ガソリン	0		0	
乗用草刈機	アグリップ RM85B	12. 5. 2	"	12	ガソリン	46	5,454	11,235	替刃セット交換 11,235
"	アグリップ RM86	15. 5. 7	"	13	ガソリン	75	8,787	104,517	ミッション車軸修理 93,282 替刃セット交換他 11,235
(生物工学研究室)									
スピードスプレヤー	昭信 3S 4WD6-T	1. 4. 27	薬散	13	軽油	40	2,937	13,135	水漏れ修理 13,135
動力運搬車	カワシマ RF4WD-DV	15. 6. 20	資材運搬	89	ガソリン	21	2,555	0	
トラクター	ヤンマー EF220VUKS5ME	16. 6. 24	耕耘	21	ガソリン	41	4,905	9,450	ローダー脱着不良 9,450
(日南試験地)									
トラクター	クボタ A-13	4. 8. 7	耕耘・畝立 薬散	13	軽油	20	1,468	0	
"	ヤンマー 21PS AF322	14. 5. 31	"	19	軽油	169	12,762	0	
管理機	クボタ TI-55SKBVI	3. 5. 15	耕耘・畝立	19	ガソリン	38	4,606	0	
"	クボタ T-80	7. 9. 21	"	4	ガソリン	8	916	0	
動力三輪車	カワシマ SC1520DBV-SE	6. 7. 4	運搬	21	ガソリン	45.5	5,482	0	
除雪機	KSR8	3. 12. 9	除雪	3	ガソリン	6	756	0	
計					ガソリン	1,602.5			
					軽油	3,080.2	440,494	694,623	

30 生産物(品)に関する調べ

(平成22年1月31日現在)

生産部門	品各種類	作付面積 m <sup>2</sup>	生産計画 数量 kg	前年度か らの繰越	生産数量				処分数量				備考		
					生産 購入 kg	場内 使用 kg	差引計 kg	売却		目的外使用		廃棄 kg		計	
								数量 kg	金額 円	数量 kg	金額 円			数量 kg	金額 円
果樹研究室	二十世紀	10,200	30,000	0	29,090.8	2,256.8	26,834.0	22,580.4	7,504,384	3,307.2	946.4	26,834.0	7,504,384	0	
	幸水	500	480	0	467.1	130.2	336.9	306.4	87,095	0	30.5	336.9	87,095	0	
	翠水	750	2,100	0	1,593.2	46.3	1,546.9	1,472.2	342,606	0	74.7	1,546.9	342,606	0	
	うめ	1,500	2,000	0	876.6	(13.0)	876.6	707.0	82,835	0	169.6	876.6	82,835	0	
	その他ナシ	81,500	12,000	0	24,321.2	13,020.1	11,301.1	8,347.0	1,747,190.0	0	2,954.1	11,301.1	1,747,190	0	
	西条	500	360	0	505.8	0	505.8	444.0	44,400	0	61.8	505.8	44,400	0	
	その他カキ	550	200	0	291.4	0	291.4	183.8	20,795	0	107.6	291.4	20,795	0	
	モモ	500	400	0	435.6	63.8	371.8	144.1	34,067	0	227.7	371.8	34,067	0	
	リンゴ	11,300	1,000	0	1,347.1	0	1,347.1	1,038.0	153,930	0	309.1	1,347.1	153,930	0	
	ナシ穂木	750	0	0	22.5	0	22.5	22.5	0	0	0	0	0	0	
小計		108,250	48,540	0				10,017,302	3,307.2	0			10,017,302	0	
野菜研究室	スイカ	4,300	10,000	0	18,168.8	(14,765.4)	17,850.8	8,761.8	721,106	62.2	9,026.8	17,850.8	721,106	0	
	小玉スイカ	170	250	0	347.5	347.5	0.0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	
	ミニトマト	350	800	0	1,344.4	229.7	1,114.7	620.9	297,375	0	493.8	1,114.7	297,375	0	
	シロネギ	600	1,500	0	2,064.5	4.8	2,059.7	1,872.5	261,368	0	187.2	2,059.7	261,368	0	
	イチゴ	600	1,000	0	702.3	319.4	382.9	224.3	151,350	0	158.6	382.9	151,350	0	
	ブロッコリー	3,000	3,500	0	1,479.4	154.7	1,324.7	697.0	123,750	0	627.7	1,324.7	123,750	0	
	メロン	200	400	0	491.1	(198.2)	491.1	374.6	84,490	0	116.5	491.10	84,490	0	
	ホウレンソウ	350	20	0	80.3	2.0	78.3	55.2	26,100	0	23.1	78.30	26,100	0	
	小計		9,570	17,470	0				1,665,539	62.2	0		1,665,539	0	
	花き研究室	シテッポウエリ	400	10,000	0	3,339	220	3,119	2,078	83,225	100	941	3,119	83,225	0
ストック		200	10,000	0	1,948	0	1,948	958	35,400	0	990	1,948	35,400	0	単位本
花壇苗		200	1,500	0	420	0	420	420	16,800	0	0	420	16,800	0	単位鉢
トルコキキョウ		200	6,000	0	1,330	240	1,090	750	25,400	0	340	1,090	25,400	0	単位本
小計		1,000	27,500	0				160,825	100	0		160,825	0		

30 生産物(品)に関する調べ

(平成22年1月31日現在)

生産部門	品名種類	作付面積 m <sup>2</sup>	生産計画 数量 kg	前年度か らの繰越	生産数量			処分数量			備考				
					生産 購入 kg	場内 使用 kg	差引計 kg	売却		目的外使用		計			
								数量 kg	金額 円	数量 kg			金額 円	数量 kg	金額 円
環境研究室	ブロッコリー	2,400	250	0	213.7	0.0	213.7	171.00	20,250	0	42.7	213.70	20,250	0	
	スイカ	1,200	300	0	294.0	(166)	294.0	185.0	207,606	0	109.0	294.0	207,606	0	単位 玉
	メロン	2	300	0	213.0	(25)	213.0	189	96,193	0	44.0	213.0	96,193	0	単位 玉
	トマト	1	80	0	46.7	0.0	46.7	34.5	7,420	0	12.2	46.7	7,420	0	
	ミニトマト	0.6	50	0	58.9	0.0	58.9	41.6	16,850	0	17.3	58.9	16,850	0	
	キュウリ	1	300	0	258.2	0	258.2	181.0	11,940	0	127.2	258.2	11,940	0	
	サツマイモ	2	400	0	271.0	0	271.0	217.0	18,210	0	54.0	271.0	18,210	0	
	ニンジン	1	200	0	152.0	0	152.0	110.0	7,350	0	42.0	152.0	7,350	0	
	ナガイモ	14	3,600	1,567.0	3,490.0	2,355.0	2,702.0	2,471.0	403,978	0	231.0	2,702.0	403,978	0	
	サトイモ	2	70	17	58.4	7.0	68.4	35.0	3,180	0	33.4	68.4	3,180	0	
	ソラマメ	4	150	0	177.0	16.0	161.0	80.0	9,660	0	81.0	161.0	9,660	0	
	ホウレンソウ	7.8	500	0	545.5	0.0	545.5	365.4	122,884	0	180.1	545.5	122,884	0	
	ナス	1	100	0	102.2	0.0	102.2	64.0	5,810	0	38.2	102.2	5,810	0	
	シロネギ	6	300	0	305.0	0.0	305.0	197.0	31,080	0	108	305.0	31,080	0	
	スイートコーン	2	250	0	324.1	0.0	324.1	259.6	42,625	0	64.5	324.1	42,625	0	
	豊水	3.5	300	0	340.0	0.0	340.0	0	0	0	340.0	340.0	0	0	
あきづき	2	100	0	118.6	118.6	0.0	0	0	0	0	0	0	0		
王秋	2	120	0	148.8	148.8	0.0	0	0	0	0	0	0	0		
二十世紀(金コーン)	12	300	0	340.3	0.0	340.3	0	0	0	0	340.3	0	0		
小計		3,664.3	7,670	1,584					1,005,036	0	1,865	6,396	1,005,036	0	
生物工学研究室	ねばりっ娘	600	1,000	30	280.0	80.0	230.0	188	22,680	0	5	193.0	22,680	37	
	ラッキョウ	90	250	0	141.7	118.4	23.3	0	0	0	23	23.3	0	0	
小計		690	1,250	30					22,680	0	28	216	22,680	37	
宮城砂丘地分場	シロネギ	7,000	22,000	0	11,890	940	10,950	7,364	1,297,967	0	3,586.0	10,950.0	1,297,967	0	
	ネギ苗	400	6,000	0	3,350	0	3,350	3,350	55,807	0	0	3,350.0	55,807	0	単位 本
	サツマイモ	1,000	2,500	0	960	0	960	200.0	14,400	0	0.0	200.0	14,400	760	
	カンショ苗	140	10,000	0	8,750	0	8,750	8,750	119,437	0	0	8,750.0	119,437	0	単位 本
	ニンジン	400	1,000	0	260	0	260	183.0	10,100	0	77.0	260.0	10,100	0	
	サトイモ	300	900	0	890	0	890	60.0	500	0	157.0	217.0	500	673	
小計		9,240	42,400	0					1,498,211	0	0		1,498,211	1,433	

30 生産物(品)に関する調べ

(平成22年1月31日現在)

生産部門	品名種類	作付面積 ㎡	生産計画 数量 kg	生産数量				処分数量				差引残	備考		
				前年度か らの繰越	生産 購入 kg	場内 使用 kg	差引計 kg	売却		目的外使用				計	
								数量 kg	金額 円	数量 kg	金額 円			数量 kg	金額 円
河原試験地	富有	3,000	3,000	0	2,364.3	417.3	1,947.0	1,129.0	0	0	818.0	1,947.0	0	0	
	西条	3,000	3,000	0	4,382.7	1,907.2	2,475.5	2,034.4	31.6	0	409.5	2,475.5	597,181	0	
	花御所	1,500	1,500	0	829.0	296.0	533.0	205.0	0	0	328.0	533.0	11,010	0	
	その他柿	7,400	2,500	0	1,159.1	665.1	494.0	294.7	168.3	0	31.0	494.0	27,000	0	
	小計		14,900	10,000	0				635,191	199.9	0			635,191	0
砂丘地農業研 究センター	ブドウ	1,820	1,300	0	1,244.8	431.2	813.6	603.3	0	35	175.3	813.55	457,222	0	
	ナガイモ	700	2,500	558	2,932.0	558.0	2,932.0	545.0	0	0	269.0	814.0	90,488	2,118	
	ねばりっ娘	550	1,600	70	1,665.0	201.0	1,534.0	384.0	0	0	43.0	427.0	247,372	1,107	
	ねばりっ娘ムカゴ	50	50	0	60.0	0.0	60.0	0.0	0	0	0.0	0.0	0	60	
	ラッキョウ	1,000	1,000	0	589.0	549.0	40.0	0.0	0	40	0.0	40.0	0	0	
	ダイコン	28	50		150.0	60.0	90.0	52.5	0	0	0	37.5	90.0	1,750	0
	タマネギ	28	20	0	120.0	120.0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0	0	0	
	イチゴ	36	5	0	12.3	12.3	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0	0	0	
	ジャガイモ	28	30	0	60.0	60.0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0	0	0	
	ハウサイ	28	40	0	96.0	96.0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0	0	0	
小計	かんしょ	36	40	0	120.0	120.0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0	0	0	
	白ネギ	28	30	0	88.0	88.0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0	0	0	
		4,332	6,665	628				796,832	75	0			796,832	3,285	
	トマト	720	3,500	0	4,873.9	514	4,822.5	1,888.0	0	0	2,934.5	4,822.5	547,986	0	
日南試験地	シロネギ	1,800	6,000	0	7,576.0	916.0	6,660.0	6,660.0	0	0	0.0	6,660.0	810,736	0	
	ホウレンソウ	100	80	0	242.0	40	238.0	66	0	0	170.0	238.0	31,185	0	
	ブロッコリー	600	420	0	326.3	234.6	91.7	0	0	0	91.7	91.7	0	0	
	ピーマン	200	1,000	0	1,333.8	7.5	1,326.3	985	0	0	341.3	1,326.3	154,770	0	
	ストック	100	2,500	0	1,624.0	1,624.0	0.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	
	キャベツ	200	1,100	0	316.0	316.0	0.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	
	小計		3,720	14,600	0				1,544,677	0	0			1,544,677	0
計		155,366.3	176,095	2,242				17,346,293	3,744	0			17,346,293	4,755	

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(補助)系統適応性検定試験		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	36年度 ～ 年度		(予算額)	(346,000円)
			支出済額	249,100円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(独法)果樹研究所で育成された新系統の本県における地域適応性検定	本場	ほ場 10a	第8回系適のナン5系統について果実品質と栽培特性を明らかにする。	(成果) ・第8回系適では「筑波54号」が7月下旬、「筑波55号」が8月中旬に収穫でき、早生品種として有望であった。  (課題) 継続して特性調査を実施する。

事業名	(委)ナンの輸出促進に向けた生産・流通技術の開発		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	20年度 ～ 21年度		(予算額)	(1,656,000円)
			支出済額	1,324,800円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
中国・台湾の贈答ニーズに即した、大玉果実生産、貯蔵技術の確立	本場	ほ場 30a	大玉果実生産技術の確立 長期貯蔵技術の検討 新品種の輸出適正試験	(成果) ・「ゴールド二十世紀」において、PCa処理はGA単用処理に比べ大玉果実の割合が増え、貯蔵性も同等であった。 ・「涼月」の輸出に適した収穫時期を検討した結果、満開後130～135日頃であった。 ・1-MCP処理方法を検討した結果、収穫コンテナ、果実箱での処理ともに効果認められた。  (課題) ・涼月の収穫適期の検討

事業名	(受)地球温暖化が園芸作物に与える影響評価		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	21年度		(予算額)	(534,000円)
			支出済額	427,200円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
温暖化がニホンナシの生育に与える影響調査	本場	ほ場 10a	温暖化影響の解明のため、過去の気象要因と生育・作況データを解析する。	(成果) ・過去30年分の気象データ解析した結果、30年前と比較し約1°Cの上昇が認められた。 ・ニホンナシ(二十世紀、幸水、豊水)の開花は、温暖化の影響により前進化しており、特に、2月～4月の気温が高まった場合、開花が早まると推測された。  (課題) ・温暖化に対応した品種更新

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)「新甘泉」等赤ナシ新品種の省力安定栽培技術確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	21年度 ～ 25年度		(予算額)	(2,235,000円)
			支出済額	1,162,200円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
赤ナシ新品種栽培の技術確立によるマニュアル化	本場	ほ場 30a	赤ナシ新品種の着果管理技術を確立する。	(成果) ・「王秋」の最適な着果番果を検討したところ、4～5番果が「王秋」らしい果形で果重700g程度になった。
				(課題) ・「新甘泉」の着果管理法の検討
ほ場 30a		ジョイント整枝に向けたナシ苗木育成方法の検討	(成果) ・ジョイント用苗の育苗方法を検討した結果、ポット栽培樹の生育が優れた。	
			(課題) ・混植無交配による省力化栽培の検討	
王秋の果肉崩壊症の発生低減技術の確立	ほ場 50a	王秋の果肉崩壊症の発生原因を究明と防止法を確立	(成果) ・土壌改良により年々コルク状障害の発生が減少してきた。	
輸出用穂木の安定生産技術の確立	ほ場 10a	新興の花芽安定着生技術の確立	(成果) ・「新興」の摘心処理により、輸出向け穂木に適当な太さの枝は得られたが、本年は花芽の着生が悪かった。	
			(課題) ・花芽着生の継続試験	

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(甲)「なつひめ」等青ナシオリジナル品種の栽培技術の確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	21年度 ～ 25年度		(予算額)	(3, 229, 000円)
			支出済額	1, 679, 000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
青ナシ新品種の生育特性解明	本場	ほ場 50a	「なつひめ」「夏さやか」の特性解明と、各新品種の収穫適期の検討	(成果) ・「夏さやか」では、幼果時に変形が認められたものは収穫時においても大きく果形が乱れる傾向にあった。 ・「なつひめ」の摘果時には、着果番果にこだわらず、大きくて果梗の長い果実を残すのが良かった。 ・新品種の収穫時の糖度は、8月10日の糖度と高い相関が見られた。
本県育成品種の早期多収、省力整枝法の確立		ほ場 50a	新品種栽培の省力化及び多収を実現するため、各品種の特性に応じた整枝法を確立する。	(成果) ・「おさゴールド」は、植付け3年で植栽間隔2.5m区においてジョイント可能な主枝長となった。
新品種の高品質果実の安定生産技術の確立		ほ場 30a	品種に適した果実袋、栽培管理技術を確立する。	(成果) ・「夏さやか」は果面が汚れにくいので、小袋1回掛け栽培による、高糖度果実の省力栽培が可能と考えられた。 ・「夏さやか」の側枝維持(強大化防止)と花芽確保のためには、5月下旬まで数回摘心を実施することが効果的であった。
省力軽労で取り組みやすい土壌管理法の検討		ほ場 30a	省力的な土壌改良方法および施肥量の削減技術を確立する。	(成果) ・土壌改良資材についてポット栽培で検討した結果、くん炭の施用が根の発生量および活性に最も良い効果がみられた。
消費者の求める美味しいナシづくりに向けた技術確立		ほ場 50a	生理障害等のロスの少ない完熟ナシ栽培技術を確立する。	(成果) ・「おさゴールド」の生産安定と高品質果実生産のための摘らい程度は4～6花が適当と考えられた。 ・卓上型糖度センサーを用いた収穫時期の指標を作成した。
				(課題) ・各品種の着果基準、収穫時期、栽培管理方法の確立
				(課題) ・品種に適した整枝法、ジョイント栽培の検討
				(課題) ・袋試験、摘心試験の継続
				(課題) ・土壌の根域集中管理方法の検討
				(課題) ・美味しいナシづくりに向けた、品種別の栽培技術の検討

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)スイカの生育障害克服等による高位生産安定技術の確立		担当室別	野菜研究室
実施計画期間	平成16年度 ～平成22年度		(予算額) 支出済額	(2,073,000円) 1,077,900円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
急性萎凋症総合対策技術確立(H16～22)	本場内および現地	場内ハウス1.8a 場内露地ほ場3.0a 現地ハウス3.0a	・黒点根腐病による急性萎凋症発生と土壤水分管理の関連性を明らかにする。 ・未調査の現地急性萎凋症常発ほ場の発生要因を特定する。 ・急性萎凋症に強い台木を選定する。	(成果) ・収穫前に土壌が乾燥すると、黒点根腐病による急性萎凋症が助長された。 ・現地の急性萎凋症常発ハウスほ場の有効水分量が少ないことが分かった。 ・本県育成系統の共台に黒点根腐病の耐性が高い系統があった。 (課題) ・黒点根腐病に強いユウガオ台木の検索 ・土壤消毒で改善されない現地ほ場の改善策の検討
雌花、雄花の着生安定着果安定技術の確立(H16～22)	本場内	場内ハウス3.6a	・現地で実用可能な花粉貯蔵技術を開発する。	(成果) ・花粉は家庭用冷凍庫で1週間保存可能だが、出庫して2時間経つと花粉の発芽率が極端に低下した。 (課題) ・冷凍庫から出庫した後の花粉発芽率の低下防止策の検討
ハウス栽培のかん水基準の検討(H21～22)		場内ハウス3.6a	・ハウス栽培における土壤水分環境の変化とスイカの生育との関連性を明らかにする。	(成果) ・マルチ前の散水量が少ないと深さ60cmの土壤水分が早い時期から乾燥した。 (課題) ・適正かん水量、かん水回数の検討
空洞果発生軽減技術の確立(H16～22)		本場ハウス1.4a 場内露地ほ場6.0a	・交配後の省力的な雌花局所保温方法を検討する。	(成果) ・梨小袋を密閉せずに雌花に被せると省力的で空洞果発生の発生も軽減された。 (課題) ・収穫前の窒素過剰吸収による空洞果対策
低コスト・省力栽培技術の確立(H16～22)		本場ハウス2.8a 本場露地ほ場6.0a	・省力栽培として考案されたハウス一条植栽培の着果安定など生産安定化を図る。 ・トンネル栽培における低コスト資材利用を検討する。	(成果) ・一条植栽培は着果状況に環境による年次変動が大きかった。 ・4月中旬定植では安価な農ポリによる被覆が可能であった。 (課題) ・トンネル栽培の省力的栽培管理技術および資材の低コスト化の検討
抑制小玉スイカ裂皮対策試験(H18～21)		本場ハウス1.6a	・裂皮に影響与えている環境要因を解析する。	(成果) ・果実夜間保温で裂皮が増加し、夜温が影響していることが分かった。 (課題) ・裂皮防止対策の検討

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)「美味しいトマト」生産のための総合管理技術の確立		担当室別	野菜研究室
実施計画期間	平成19年度 ～平成21年度		(予算額) 支出済額	(488,000円) 253,700円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
抑制ミニトマトの整枝方法による糖度向上(H19～21)	本場内	場内ハウス1.6a	・昨年検討した糖度向上に有効な側枝着果を利用した整枝方法の作業性を改善する。	(成果) ・利用する側枝の節位を1段高めることで作業性はやや改善され、糖度も慣行整枝よりも高かった。 (課題) ・収量性などの年次変動の解析
糖度の高いミニトマト品種の検索(H19～21)		場内ハウス1.6a	・慣行品種よりも糖度の高い品種の選定とこれまで選定した品種の年次変動を確認する。	(成果) ・‘ラプリーさくら’は3年間の試験にわたって糖度、収量とも高水準で安定しており、有望な品種であった。 (課題) ・有望品種の栽培技術の検討

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)イチゴの品質安定技術の確立		担当室別	野菜研究室
実施計画期間	平成19年度 ～平成22年度		(予算額) 支出済額	(1,012,000円) 526,200円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
‘章姫’の食味安定と日持ち性の改善	本場内	場内ハウス3.4a	・本県主要品種‘章姫’の春季の糖度低下防止および果実硬度上昇が可能な方法を探る。	(成果) ・ビピフルフロアブル散布により春季の糖度低下が軽減した。 ・ケイ酸カルシウムの施用で果実硬度が高まった。 (課題) ・糖度低下防止、硬度上昇技術確立のための継続検討
有望品種の検索と特性解明		場内ハウス1.4a	・多収で糖度が高く、硬い品種を選定する。	(成果) ・‘紅ほっぺ’の収量性は‘章姫’に比べややおとるものの、糖度は安定しており果実も硬く有望であった。 (課題) ・有望品種の継続検索および栽培方法の確立

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)消費者ニーズに応えるブロッコリーの高品質栽培技術の確立		担当室別	野菜研究室	
実施計画期間	平成19年度 ～平成21年度		(予算額) 支出済額	(1,112,000円) 578,200円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
小花黄化症状の克服技術確立(H19～21)	本場内	場内露地ほ場12a	・9月収穫の作型で小花黄化が発生しにくい品種の選定や栽培特性を明らかにする。 ・小花黄化発生に関わる環境要因を明らかにする。	(成果) ・'SK3-081'は小花黄化の発生が少なく、花蕾品質も良く、9月中旬から10月下旬収穫の作型に適した。 ・収穫前2日間の最低気温が高く、降水量が多いと小花黄化の発生が多くなった。	(課題) ・小花黄化防止技術の確立
2～3月収穫作型の有望品種検索(H20～21)		場内露地ほ場6.0a	・2～3月収穫作型の適品種の選定と適期は種期を明らかにする。	(成果) ・試験実施中	(課題)
施肥最適化技術の確立(H21)		場内露地ほ場12a	・土壌養分と作物の養分吸収量との関係を明らかにする。	(成果) ・土壌の可給態窒素量が10mg/100g以上ではブロッコリーの窒素吸収量は頭打ちとなった。ブロッコリーの窒素吸収量は20kg/10a前後であった。	(課題) ・土壌養分に応じた施肥診断基準の作成

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(委)EOD反応を活用した花き類の効率的生産技術の開発		担当室別	花き研究室
実施計画期間	平成19年度 ～平成21年度		(予算額) 支出済額	(2,582,000円) 2,065,600円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
明期終了時の短時間加温(EOD-Heating)活用による省エネ型栽培技術の開発	本場	ハウス2a	・EOD加温技術の確立	(成果) ・日没後3時間を23℃、その後最低13℃とするEOD加温により、終夜18℃加温(慣行)区と同等か、それ以上の生育を示した。なお、EOD加温のエネルギー投入量は、慣行区より約30%低かった。 (課題) ・花壇苗など他品目での検討。
明期終了時の短時間光照射(EOD-Lighting)活用による施設回転率向上技術の開発	本場	ハウス2a	・EOD光照射技術の確立	(成果) ・FR光を日没後0.06W/m <sup>2</sup> で3時間照射(EOD照射)すれば、約1ヶ月開花が早まり、これまで鳥取では不可能であった4月出荷が可能となった。 (課題) 電照機器の低コスト化(検討中であり、普及しやすい白熱灯を用いた光源で草丈伸長効果を確認済。開花促進効果を今後調査予定。)
温度・光に対留守花き類の環境応答反応の理解に基づく効率的生産体系の確立	本場	ハウス4a	・EOD加温とEOD光照射の併用技術の確立	(成果) ・EOD加温+EOD-FR光照射併用で、トルキキョウの開花が慣行栽培に比べ1ヶ月早まり、切り花長が30%以上伸長した。なお、併用処理による投下エネルギーは、慣行栽培に比べ35%削減できた。 (課題) ・他品目での検討。

事業名	(単)未利用農地等を有効利用する花き類(露地)栽培技術の開発		担当室別	花き研究室
実施計画期間	平成21年度 ～平成25年度		(予算額) 支出済額	(1,220,000円) 634,400円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
露地栽培向き新品目の検索	本場	ほ場 4a	・栽培に手間がかからず粗放的で露地掘え置き栽培が可能な宿根草類や枝物を検索する。	(成果)[宿根草] ・ロベリアなど13品目を圃場に定植し、養成中。 (課題)[宿根草] ・今後、開花時の品質や栽培労力等を調査する。
露地での高品質栽培法の確立	本場	ほ場 2a	・実つき枝物やシンテッポウユリの高品質化のための露地管理法を明らかにする。	(成果)[実つき枝物] ・果樹棚を利用したツルメモドキ、サルトリイバラの樹形管理法を検討中。 (課題)[実つき枝物] ・誘引、収穫などの労働時間や、品質などを調査する。 (成果)[シンテッポウユリ(季咲き)] ・追肥に安価な硫酸を用いても、慣行の高化成肥料と同等の品質がえられた。また、LP100を基肥に用いると初期生育が旺盛であったが、後半に肥効が低下した。 (課題)[シンテッポウユリ(季咲き)] ・他のロング肥料、ロング+硫酸追肥等による低コスト高品質栽培法を確立する。
省力定植・出荷分散法の確立	本場	ほ場 1a	・県内露地切り花の主要品目であるシンテッポウユリの定植労力を軽減する。また、約1週間に集中してしまう収穫期の分散を図る。	(成果)[シンテッポウユリ(季咲き)] ・チェーンポット育苗時に育苗箱に防根シートを敷くことで、定植時の根がらみを防止でき、定植作業が容易になった。 ・5月1ヶ月間の強遮光で、品質の低下無く採花期が遅れた。 (課題)[シンテッポウユリ(季咲き)] ・チェーンポットを利用し、活着と根張りを良くする方法を検討する。
品目組み合わせ技術の確立	本場	ほ場 7a	・労働時間、経営試算等による栽培組み合わせの提案	(成果)労働時間、栽培コスト等のデータを集積中。 (課題) ・データを継続して蓄積し、経営試算を行い、品目の組み合わせを提案する。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)気象変動に左右されない花き類の開花制御・高品質化技術の開発	担当室別	花き研究室	
実施計画期間	平成21年度 ～平成24年度		(予算額) 支出済額	(1,433,000円) 745,100円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
計画的な生産を可能とする開花制御技術の検討	本場	ハウス 4a	光や温度による開花制御技術を確立する。 ・ストックの開花調節技術の検討 ・抑制シンテッポウユリの抽台促進技術の確立	(成果)[ストック] ・FR光や白熱灯を照射することにより、開花が約1ヶ月早まった。
				(課題)[ストック] H21年度は冷夏、寡日照条件下での試験であったため、年次変動を確認する。
				(成果)[シンテッポウユリ(抑制作型)] ・抽台期別の花芽分化期、採花期、切り花品質を明らかにした。 ・本葉1葉展開後の苗を夜間15℃で管理すると、抽台率が向上した。また、中山間地育苗でも抽台率が向上した。
				(課題)[シンテッポウユリ(抑制作型)] H21年度は冷夏、寡日照条件下での試験であったため、年次変動を確認する。
気象条件に負けない高品質花き生産技術の確立	本場	ハウス 2a 雨よけハウス50㎡ ガラス温室50㎡	育苗期および定植後の日長制御や温度管理による高品質化を図る。 ・シンテッポウユリ(抑制作型)のプラスチック・花首徒長対策の検討 ・花壇苗(早春出荷作型)のわい化と花蕾増加法の検討	(成果)[シンテッポウユリ(抑制作型)] ・花芽分化期の強遮光によりプラスチックの発生が増加した。
				(課題)[シンテッポウユリ(抑制作型)] ・抑制シンテッポウユリにおけるプラスチック軽減のための具体的な対策を検討する。 ・花首徒長の原因調査。
				(成果)[トルコギキョウ(抑制作型)] ・種子冷蔵育苗(5℃冷蔵)を検討したが、草丈が低く、効果は判然としなかった。
				(課題)[トルコギキョウ(抑制作型)] ・草丈伸長のための苗冷蔵など、育苗条件の検討。
燃料・資材等を削減した花き生産技術の確立	本場	ほ場 1a	鳥取では加温が必要な早春出荷作型において、燃料費を削減する技術を確立する。	(成果)[キク] ・キクにおいて、気温の日較差(昼保温・夜5℃加温)を利用して草丈伸長、開花促進し春彼岸の出荷を可能としたが、品種によっては彼岸後の出荷となったため消灯時期を検討中である。
				(課題)[キク] ・引き続き検討し、春彼岸出荷キクの低コスト加温栽培としてマニュアル化する。
				(成果)[花壇苗(早春出荷作型)] ・終夜18℃の慣行加温に対し、日没後3時間を23℃、その後最低13℃とする加温(投下エネルギー30%削減)で、キンギョソウなどの開花が促進した。
				(課題)[花壇苗(早春出荷作型)] ・省エネ効果の高い加温方法と適品目の検索。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)鳥取県の花ブランド化のための切り花および苗ものの類の品質保持技術の開発		担当室別	花き研究室
実施計画期間	平成17年度 ～平成21年度		(予算額) 支出済額	(300,000円) 156,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
栽培条件が品質と日持ち性に及ぼす影響	本場	ハウス 3.5a 圃場 5a	・日持ち性に及ぼす栽培環境の影響調査	(成果)[シンテツポウユリ] ・シンテツポウユリの施肥試験において、減肥による日持ち性低下はみられなかった。
				(課題)[シンテツポウユリ] ・早期収穫、冷蔵貯蔵後の開花状況と施肥との関係について検討する。
				(成果)[花壇苗] ・バンジーは、pF1.5の気相率が45%以上、液相率が35%以下の用土で栽培した苗の活着が優れた。
収穫後の鮮度保持技術の確立	本場	ハウス 3.5a 圃場 10a	鮮度保持剤等を利用した日持ち性と品質向上技術の確立 ・枝物の落葉促進技術の確立	(成果)[トルコギキョウ] ・トルコギキョウは流通・小売店段階で鮮度保持剤を使用すると、花持ち日数の延長、花色保持等の効果が認められた。
				(課題)[トルコギキョウ] ・完了
				(成果)[枝物] ・ツルウメドキの落葉促進には、エテホン400ppmの3日処理が効果的だった。
出荷前処理による品質保持技術の確立	本場	ほ場 0.5a	・ユリ出荷調整のための貯蔵技術の確立	(成果)[シンテツポウユリ] ・シンテツポウユリを蕾長5～6cmで収穫し、貯蔵前処理液にGA3を添加すれば、貯蔵(5℃)30日後に正常開花した。45日貯蔵の場合は、貯蔵後にフルオースとグリセリンを処理すると正常開花した。
				(課題)[シンテツポウユリ] ・グリセリン濃度の検討
				(成果)[花壇苗] ・棚持ち向上のための前処理は、ピオラでボンザイ4000～6000倍が効果的だったが、バンジーでは効果が高すぎ株張りを抑制したため、再検討を要した。
(課題)[花壇苗] ・バンジーに対する棚持ち向上法の検討。				

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)市場競争力のある鳥取オンライン園芸新種の育成		担当室別	果樹研究室、河原試験地、砂丘地農業センター、野菜研究室、花き研究室	
実施計画期間	平成18年度 ～平成22年度		(予算額) 支出済額	(1,330,000円) 691,600円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
ナン新品種の育成	果樹研究室	場内露地ほ場 10a	6 主な事業に関する調べに記載。		
鳥取県に適した品種の選定と交配育種による新品種の育成	河原試験地	場内露地ほ場 50a および 現地試験			
新しい青ブドウの選抜	砂丘地農業研究センター	場内ハウス 3a			
スイカ新品種の育成と実用化	野菜研究室	場内ハウス4.4a 場内露地ほ場9.0a			
イチゴ新品種の育成と実用化		場内ハウス4.0a			
シバ優良系統の育成	花き研究室	場内露地ほ場 3a			
実つき枝物の優良系統の育成		場内露地ほ場 2a			

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(委)ナシ輸出振興のための検疫対象害虫付着防止技術の開発		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成20年度 ～平成21年度		(予算額) 支出済額	(1,000,000円) 830,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ナシ輸出で問題となる検疫対象害虫に対する果実袋改良による被害低減効果の実証	本場	ほ場23a	改良果実袋による検疫対象害虫の被害低減効果、改良果実袋の経済栽培園における実用性を検討する。	<p>(成果) 改良した果実袋は、既存袋と比較してナシヒメシンクイ及びカイガラムシ類に対する被害回避効果が高く、カメムシ類及び夜蛾に対しても被害回避効果が期待できることを明らかにした。改良した果実袋は現在のナシ園でも実用性は高かった。</p> <p>(課題) 被害低減効果の高い果実袋の普及。</p>
事業名	(委)新農薬適用試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成10年度～		(予算額) 支出済額	(7,463,000円) 6,194,300円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
果樹病害虫の防除薬剤の実用化	本場 砂丘地農業研究センター 現地ほ場	ほ場36a 現地ほ場23a	果樹の新規薬剤の防除効果等を検討し、各果樹の防除歴を編成する。	<p>(成果) ナシの黒斑病、黒星病、うどんこ病、ナシヒメシンクイ、ハダニ類、ブドウのハダニ類について新規薬剤の効果が明らかとなった。ナシ防除歴には3剤の新規薬剤を採用した。</p> <p>(課題) マイナー害虫の農薬適用拡大推進。</p>
野菜・花き病害虫の防除薬剤の実用化	本場 弓浜砂丘地分場	ほ場62a	野菜、花きの新規薬剤の防除効果等を検討する。	<p>(成果) スイカのつる枯病、うどんこ病、アブラムシ類、ハダニ類、ネギのべと病、黒斑病、さび病、白絹病、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ、ブロッコリーの菌核病、アブラムシ類、コナガ、ナガイモのナガイモコガ、コガネムシ類、ハダニ類等に対する新規有効薬剤の効果が明らかになった。</p> <p>(課題) 本県特産農産物の生産上問題となる病害虫の更なる農薬適用拡大推進。</p>

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(補助)土壌病害虫の効率的防除による園芸作物安定生産技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成17年度 ～ 平成21年度		(予算額) 支出済額	(2,133,000円) 1,770,400円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
県特産農作物の土壌病害虫防除対策の確立	本場 現地ほ場	ほ場31.8a	土壌伝染性病害および土壌害虫の効果的な防除対策を検討する。	(成果) 砂畑ほ場においても、冬期の土壌くん蒸処理は、スイカ急性萎凋症抑制効果が高いことを明らかにした。 メロンのネコブセンチュウに対する土壌消毒剤の効果的な処理時期を明らかにした。 ラッキョウの赤枯病の発病時期と発病程度が収量に及ぼす影響を明らかにした。  (課題) 効果の高い土壌消毒方法の普及。 ラッキョウ赤枯病の防除対策。

事業名	(単(委))有機・特別栽培支援技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成21年度 ～ 平成24年度		(予算額) 支出済額	(1,358,000円) 977,700円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
有機・特別栽培に利用可能な、化学農薬に替わる病害虫の防除技術の確立	本場 河原試験地 現地ほ場	ほ場62.3a	6 主な事業に関する調べに記載。	

## 31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)バイオテックによるナシ新品種シリーズの育成		担当室別	生物工学研究室
実施計画期間	19年度 ～ 23年度		(予算額)	(3,486,000円)
			支出済額	1,812,700円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
高品質省力栽培対応ナシ新系統の育	生物工学研究室・本場	交配規模:149花 交雑実生育成: 3645個体  ほ場選抜 一次選抜対象 2785系統 二次選抜対象38 系統 三次選抜対象24 系統	①自家和合性、②黒斑病・黒 星病耐病性、③糖度13度以 上の良食味系統の選抜、④ 果重350g以上、⑤極早生	(成果) ・極早生優良品種育成を目的に本年度 は14交配組み合わせ638個の交雑種 子を獲得した。また、前年度獲得した21 交配組み合わせ3645個の交雑種子よ り実生を育成し、生育が良好な1893個 体を選抜した。 ・平成9年～16年に交配したナシ雑種 系統のうち、本年度は1217樹が結実 し、食味が良好な51系統を新たに選抜 した。生育不良や黒斑病に弱い系統 209系統、食味不良の903系統を淘汰 した。 ・前年度一次選抜した38系統につい ては、今年度も安定して食味や果実品質 に優れる5系統を有望と認め、選抜し た。また、二次選抜した系統につい ては、花芽着生が安定し、食味や果実品質 に優れる4系統を有望と認め、選抜し た。  (課題) ・極早生良食味系統の開発
ナシ倍数体品種の 育成		倍数体ナシ:350 樹 培養芽条:800本	高品質大玉系統の選抜	(成果) ・新たになつひめ等3品種・系統につ いて取り組み、合計44品種・系統のナシ で倍数体を作成した。 ・育成した系統のうち、25系統の自家和 合性について調査した結果、15系統に ついて自家和合性が確認された。 ・倍数体31系統の栽培特性を調査した 結果、25系統は果点が大きくなる、果 形が乱れる等果実品質が劣り、淘汰し た。他の6系統は再検討とした。  (課題) ・倍数体の果実形質の調査と優良系統 選抜
白紋羽病耐性ナシ 台木の育成		耐病性選抜台 木:150本 交雑実生:1130 本	白紋羽病耐病性台木の選抜	(成果) ・接種試験により、選抜系統間雑種か ら245個体、マメナシ北条系自然交雑種 から145個体を耐病性個体として二次 選抜した。また、同様に、野生ナシ自然 交雑種の二次選抜個体から健全個体 27個体を三次選抜した。 ・耐病性優良系統H18、H21の2系統に ついては白紋羽病多発現地圃場で実 証試験を実施中で、現在発病は認めら れていない。  (課題) ・種苗増殖と栽培実証評価

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)バイテクによるナガイモ及びラッキョウ新品種の育成		担当室別	生物工学研究室
実施計画期間	17年度 ～ 21年度		(予算額)	(3,321,000円)
			支出済額	1,726,900円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ヤマノイモの胚培養による雑種育成	生物工学研究室・砂丘地農業研究センター・現地ほ場	交配花数:1830花	短型ナガイモ新系統の開発	(成果) ・イチョウイモおよびヤマトイモを種子親とし、各種ナガイモ優良系統を花粉親とした人工交配(2774小花)を行い、54個体の種子を獲得した。さらにこの種子の胚を培養し、21個体の雑種を獲得した。 ・また、前年度獲得した雑種から165個体の植物体を養成した。残りの366個体については、培養により養成を図っている。 (課題) ・雑種獲得率の向上
ヤマノイモ雑種の特性評価による1次選抜		ヤマノイモ雑種:148系統 選抜系統1系統	短型優良ナガイモの選抜	(成果) ・平成19年度交配のヤマノイモ雑種148系統を栽培した、形状と肥大性が良好な1系統を選抜した。また、32系統については再検討と判定し、残りの82系統は淘汰した。 ・前年度までに選抜した1U-61は切り芋萌芽性を有し、'ねばり娘'と比較し、品質は同等以上の評価を得たが、収量性はやや劣った。 (課題) ・選抜系統の増殖および栽培特性評価
乾腐病耐性のラッキョウの育成		交配花数:12000花 交雑実生育成:195個体 ほ場選抜 西園ほ場2a 現地ほ場30㎡	ラッキョウ乾腐病耐性系統の開発	(成果) ・乾腐病抵抗性優良品種育成をめざし、本年度は12000小花(目標)を交配・子房培養し、交雑種を養成中。前年度に獲得した交雑種195個体についても継代培養で養成中。 ・中玉系の耐病性系統を育成する目的で、再選抜した21系統の中から、対照より鱗茎重が大きい10系統を選抜した。 ・前年度までに選抜した4系統を供試し、栽培及び品質特性により評価した結果、耐病性に優れ食味が良好なR5を選抜した。また、選抜系統の中では最も収量性が高いR8を再検討とした。 (課題) ・食品加工適性評価、食味評価、選抜系統の増殖
赤いラッキョウの育成		ラッキョウと赤タマネギとの雑種:10系統	赤い色の生食用ラッキョウ(エシャロットタイプ)の育成	(成果) ・ラッキョウ栽培種と赤タマネギを交雑し、子房培養により25系統を育成。鱗茎の赤色が濃い2系統を選抜。 (課題) ・選抜系統の増殖および栽培特性評価。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)バイオテックによる花きニューアイテムの開発		担当室別	生物工芸研究室
実施計画期間	19年度 ～ 23年度		(予算額)	(1,400,000円)
			支出済額	728,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
リンドウの新品種育成	花き研究室・生物工芸研究室・日南試験地	花き研究室 ハウス10㎡ 露地ほ場0.2a  日南試験地 1a	天咲き性で花色の優れるリンドウの開発	(成果) ・親候補の自殖種子11系統、新品種候補の交雑種子19系統を採種した。これらを播種・育苗し、自殖6系統および交配13系統を、日南試験地および本場に定植した。 ・21年度は、人工交配により12系統の交雑種子を採種した。  (課題) ・交雑系統、自殖系統の特性調査と選抜
		培養芽条数:200 芽条  圃場定植:6系統 ×40株  交配花数:26花	日持ちの良いリンドウの育成 4倍体の開発	(成果) ・選抜系統の染色体倍加を行い、優良3系統の4倍体を獲得した。'No. 15'の4倍体は平成19年度に日南試験地に定植したが、草勢が弱く欠株が多発した。 ・また、試作した3倍体をは種したが、発芽個体が得られなかった。  (課題) ・4倍体の特性調査 ・3倍体の試作
ユリの新品種育成	生物工芸研究室・花き研究室	交配花数:102  順化種間雑種数:751  一次選抜対象個体数:726個体 一次選抜系統:6系統 二次選抜系統:6系統	小球開花性の新奇性の高いユリ品種の育成	(成果) ・102花の交配を行い、胚珠・胚培養により、新たに52個体の種間雑種を獲得した。また、前年度に獲得した種間雑種751個体順化し、球根養成した。 ・本年初開花した交雑種726個体から、花の形状に優れる25個体を一次選抜した。 ・栽培試験により、前年度一次選抜した6系統から、花の評価が高く、抽だい率も比較的高く、葉枯病の発生も少ない1系統を有望と認めた。  (課題) ・選抜系統の増殖および栽培特性評価。
		花き研究室  花き研究室 ガラス温室20㎡ 露地ほ場50㎡	彼岸に出荷できる抑制作型に 適するシンテツポウユリの開発	(成果) ・18年度までに既存のシンテツポウユリ×タカサゴユリ自生種F1を交雑し種子を得た。 ・19～21年度は系統内で集団育種法により種子を得た。20、21年度は目標とする形質を持つ個体が増加した。  (課題) ・系統内の形質揃いを高める
観賞用ラッキョウの新品種育成	生物工芸研究室・花き研究室	花き研究室 ハウス10㎡ 露地ほ場50㎡  西園ほ場2㎡	切り花品目としての栽培基本 特性の調査	(成果) ・'プリティルビー'の花芽分化期は4月末～5月初旬であった。 ・花芽分化期の4月下旬定植では、採花本数や切り花品質の低下が見られた。 ・前年6～11月定植は、3月定植に比べ一株当たりの採花本数が2～3倍に増加し、切り花長も10～20%伸長したが、いずれの切り花長も50cm未満だった。  (課題) ・継続調査

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(補助)湖山地塩分導入に係る野菜への影響に関する試験		担当室別	砂丘地農業研究センター
実施計画期間	20年度 ～ 22年度		(予算額)	(1,730,000円)
				支出済額
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
野菜各品目における許容塩分濃度の検討	砂丘地農業研究センター	ほ場 2a	野菜各品目における許容塩分濃度の基準を定め、栽培のための資料とする。	(成果) タマネギ、イチゴ、サトイモでは、塩分による生育抑制が見られたが、ジャガイモ、カンショ、ダイコン、ハクサイ、シロネギでは、塩分による生育抑制は見られなかった。
				(課題) 塩分の蓄積が考えられるため、連作後に塩分の蓄積状況を調査する。また、要望のあった、スイカ、カボチャ、ハウレンソウについても、試験を行う。

事業名	(単)他県産地に打ち勝つブドウ生産に向けた高度栽培法の確立		担当室別	砂丘地農業研究センター
実施計画期間	21年度 ～ 25年度		(予算額)	(2,100,000円)
				支出済額
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ビオーネの着色優良系統への早期改植技術の確立	砂丘地農業研究センター	ほ場 8a	接ぎ木の活着率が80%以上となるような技術の確立。	(成果) 3月下旬に、無温床で80%以上の活着率が達成できた。
1自家製苗木育成技術の確立				(課題) 単年度の成果であり、継続調査が必要である。
2高接ぎ更新技術の確立				(成果) 6月時点の活着率は、7割以上確保できたが、11月では新梢の伸長が悪く枯死するものが多くなった。
				(課題) 新梢伸長を促進する技術の導入。
青ブドウブランド化に向けた高品質果実生産技術確立	砂丘地農業研究センター	ほ場 8a	12g以上の果粒重で脱粒の少ない果房の房作り	(成果) 満開5日後のジベレリンとフルメット混用液1回処理で、15g以上の果粒重で、脱粒の少ない房作りが可能となった。
1シャインマスカットの種なし技術の確立				(課題) 糖度18度となる房づくりと、カスリ症軽減対策。
2ハニービーナスの種なし技術の確立				(成果) 満開2日後のジベレリンとフルメット混用液1回処理で、12g以上の果粒重で、脱粒の少ない房作りが可能となった。
				(課題) 果軸を硬化させないような、植物調節剤の処理方法の開発。

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)人と農にやさしい低コスト型ラッキョウ生産技術の確立		担当室別	砂丘地農業研究センター		
実施計画期間	21年度 ～ 25年度		(予算額) 支出済額	(3,000,000円) 1,560,000円		
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題		
有機栽培技術の確立	砂丘地農業研究センター	西園ほ場 2a	有機栽培可能な系統、施肥方法、防除法を明らかにする	(成果) 玉ラッキョウは、病害の発生が少なく、らくだラッキョウは、病害の発生により収量が低下した。	(課題) 慣行栽培並みの収量が得られる栽培技術の確立	
生産コスト低減栽培技術の確立 1 施肥削減によるコスト軽減の検討		鳥取市福部町 8a	流亡の多い元肥を減らし、追肥型で慣行栽培並みの収量が確保できるか検討する。	(成果) ラクダラッキョウの大栄1号は、基肥を半減しても収量に影響はなかった。	(課題) 単年度試験なので、継続調査が必要である。	
2 労力削減によるコスト軽減の検討				連結ポットによる機械定植方法が生育収量に及ぼす影響を調査する。	(成果) 生育のバラツキが大きく、結果は判然としなかった。	(課題) 反復回数を増やして、再確認する必要がある。
3 乾腐病耐病性系統の選抜と栽培法の確立				生物工学研究室で育成した乾腐病耐病性系統の現場栽培ほ場における発病程度、収量性を明らかにする。	(成果) 収量性のある系統もあったが、乾腐病の発生が少なかったため、耐病性程度は判然としなかった。	(課題) 継続調査が必要である。
収量安定栽培技術の確立 1 栽培環境条件の検討		西園ほ場 鳥取市福部町 10a	福部砂丘と北条砂丘の栽培環境の差がラッキョウの生育に及ぼす影響を調査する。	(成果) 西園が福部より収量性が高かった。降水量やかん水量の差が影響しているものと思われた。	(課題) 気温や土壌条件、生育場所等ラッキョウの収量に及ぼす要因を検討する。	
2 種球育成技術の確立		鳥取市福部町 8a		石灰質肥料が種球に及ぼす影響を調査する。	(成果) 2月施用で収量性が向上することが分かったが、乾腐病抑制効果については、判然としなかった。	(課題) 単年度の結果なので、継続調査が必要である。

## 31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)特産砂丘ナガイモ産地存亡に係る生産安定技術の確立	担当室別	砂丘地農業研究センター	
実施計画期間	18年度 ～ 22年度	(予算額) 支出済額	(1,600,000円) 832,000円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
新品種‘ねばりっ娘’の種芋増殖法の開発	砂丘地農業研究センター	ほ場 5a	6 主な事業に関する調べに記載。	
新品種‘ねばりっ娘’の好適栽培法の開発 1 小芋の大きさについて		ほ場 5a		
2 頂芽利用法の検討		北栄町由良宿 5a		
3 栽培特性調査		ほ場 5a		
環境負荷低減技術の確立 1 低コスト施肥の検討		ほ場 5a		
2 ナガイモ栽培における施肥改善		ほ場 5a		
障害芋発生要因の解明 1 黒陥没障害発生時期の解明		東園ほ場 10a		
2 黒陥没障害発生要因		東園ほ場 10a		
3 発生軽減策の検討		東園ほ場 5a		

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)新しい販売チャンネルに対応した白ネギ栽培体系の確立		担当室別	弓浜砂丘地分場	
実施計画期間	20年度 ～ 22年度		(予算額)	(491,000円)	
			支出済額	255,300円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
加工業務用白ネギの栽培技術の確立	弓浜砂丘地分場	ほ場 1a	加工業務用白ネギの栽培技術を確立する。	(成果) ・低コスト化に向けた直まき栽培試験について、現在実施中。 ・平成20年経営の手引き白ネギ(秋冬・砂地・普通)に基づき、経営試算を行った結果、青果出荷と比較して、所得および所得率が劣り、大幅なコスト削減が必要と考えられた。  (課題) ・直まき栽培コスト削減効果。	
特別栽培白ネギの栽培体系の確立		ほ場 6a	特別栽培白ネギの栽培マニュアルの作成に向け、各種有機質資材を用い、化学合成窒素の削減を検討する。	(成果) ・乾燥鶏糞あるいは堆肥の基肥施用および9月の乾燥鶏糞の追肥は慣行と同等の収量が得られ、化学合成窒素の6割削減が可能であった。 ・クリムソクローバーは基肥化学肥料の代替が可能であり、鶏糞の追肥との組合せにより慣行と同等の収量が得られ、7～8割の化学合成窒素の削減が可能であった。 ・微生物資材等によるネギアザミウマの密度抑制効果が認められた。  (課題) ・作型別の有機質肥料による化学合成肥料の削減。 ・微生物資材等の病害防除効果。	

(平成22年1月31日現在)

事業名	弓浜砂丘地野菜の栽培技術の改善と特産品開発		担当室別	弓浜砂丘地分場	
実施計画期間	18年度 ～ 22年度		(予算額)	(350,000円)	
			支出済額	182,000円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
ニンジンの高品質・多収栽培技術の確立	弓浜砂丘地分場	ほ場 12a	高品質ニンジンの安定多収技術を確立する。	(成果) ・春まきおよび夏まき栽培における品種特性を明らかにした。 ・春まきニンジンにおけるべたがけ資材の除去時期がニンジンの品質および収量に与える影響を明らかにした。 ・ニンジンの表皮が白くミズ腫れ状になる発生原因不明の生理障害ケロイド症について、生育初期の土壌乾燥等のストレスが関係していると考えられた。  (課題) ・各作型における品種特性の継続検討、ケロイド症の発生原因の解明と対策。	
サツマイモの高品質・生産安定技術の確立と品種適応性		ほ場 9a	高品質サツマイモの生産技術を確立する。	(成果) ・新品種「クイックスイート」は食味が良く、早掘り栽培および普通掘り栽培の適性を有し、有望と考えられた。  (課題) ・「クイックスイート」の現地適応性の確認。	

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)地球温暖化に対応した白ネギ安定生産技術の確立		担当室別	弓浜砂丘地分場	
実施計画期間	20年度 ～ 23年度		(予算額)	(1,142,000円)	
			支出済額	593,800円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
夏越し栽培技術の確立	弓浜砂丘地分場	ほ場 18a	夏期の高湿による腐敗・枯死を抑制する栽培技術の確立に向け、灌水および土壌消毒の影響・効果を検討する。	(成果) ・夏期の灌水は、肥大促進に有効であったが、分けつが増加した。 ・微生物添加肥料やリン酸資材の施用が根群活性に有効であることが示唆された。 ・秀雅、関羽一本太など夏期の欠株の少ない4品種を選定した。	
				(課題) ・適正な灌水量およびほ場内窒素レベルの検討、土壌病害発生程度、施肥法の確立、有望品種の選定。	
ほ場 24a		高品質な白ネギの周年安定供給に向け、作型別適品種の選定等を検討する。	(成果) ・龍まさりなど春どり作型の有望3品種を選定した。 ・夏扇パワーなど7～10月どり作型の有望3～4品種、12月どり作型の2品種を選定した。 ・5月どり一本ネギの有望品種を選定し、栽培法を確立した。また、6月どり作型の省力化の可能性(無トンネル栽培)を見いだした。		
			(課題) ・年次変動の確認および他作型の適品種の選定。		
病害虫防除体系の確立		ほ場 12a	ネギアザミウマおよび小菌核腐敗病の防除体系を確立する。	(成果) ・ネギアザミウマに対する株元灌水処理が高い防除効果を有することを明らかにした。 ・小菌核腐敗病に対する10月中下旬の土寄せ前防除の有効性を明らかにした。	
				(課題) ・薬剤の効果確認、防除効果の高い散布方法・処理方法の検討、体系	
低コスト施肥技術の確立		ほ場 3a	安価資材を用いた低コスト施肥法を確立する。	(成果) ・石灰窒素、鶏糞の施用は慣行施肥と同等の収量が得られ、コスト低減に有効であった。	
				(課題) ・他作型における施用効果と低コスト化の検討。	

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)消費者・生産者が求めるカキの革新的栽培方法の確立		担当室別	河原試験地	
実施計画期間	21年度 ～ 25年度		(予算額) 支出済額	(1,280,000円) 665,600円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
水田転換圏での生産安定、品質向上技術を確立する	河原試験地及び現地ほ場		1軟化の原因を究明するための調査 2軟化軽減対策の現地実証試験 3収穫管理方法の確立 4脱渋、貯蔵方法の確立 5水田環境に適した台木の選抜試験	(成果) 1山畑では樹上軟化が少なく、水田ほ場では平年並みの樹上軟化であった。 2収穫方法では、ハサミともぎ取りで脱渋後の日持ちに差がないことが分かった。 3収穫果実を有孔ポリで被覆することにより、脱渋後の日持ちが向上した。 4ドライアイスの量は、現行の2%より2.5%の方が脱渋後の日持ちがよかった。 5台木の品種により、水ストレスの耐性が異なる事が分かった。  (課題) 1樹上軟化の原因究明のための調査及び対策について、継続試験を行う。	
簡易な土づくり方法を確立し、生産安定、品質向上をはかる	河原試験地及び現地ほ場		1簡易な処理方法の検討・剥皮機による土壌改良の継続試験 2水田ほ場での他の土壌改良方法との比較検討	(成果) 1水圧で穴が掘れることが確認でき、省力化が可能と考えられた。  (課題) 1土壌改良の効果の確認が必要である。	
新品種の平棚栽培による高品質多収栽培技術を確立する	河原試験地	ほ場 80a および 現地試験	1整枝・剪定及び新梢管理技術の確立 2着果管理技術の確立 3新品種での高品質栽培技術の確立	(成果) 1鳥取県育成の‘輝太郎’や‘太秋’などの新品種の植栽を行った。 2‘花御所’を平棚栽培に樹形改造を行った。  (課題) 1新品種の平棚栽培技術の確立が必要である。	
ポット栽培による高品質多収と軽労働化技術を確立する	河原試験地		1品種に適した各種早期多収方法の検討 2着果管理技術の確立 3早期多収技術の確立 4栽培技術のマニュアル化に向けた基礎試験	(成果) 1‘輝太郎’のポット定植時の切り返しは60cm程度が整枝しやすいことが分かった。 2着果の目安となる葉果比は、‘新秋’で25、‘太秋’で20程度と考えられた。  (課題) 1品種ごとの栽培管理技術の確立が必要である。	
新品種の実用化と鳥取ブランド品種を育成する	河原試験地		1鳥取オリジナル品種の育成 2花御所の優良系統選抜 3加工用に適した西条の優良系統選抜	(成果) 1‘輝太郎’の品種登録の申請を行った。苗木が1700本販売された。 2‘花御所’は、F系統に雄花が全く着生しなかった。 3ミゾの少ない西条の系統が初結実し、果実は、ほとんどミゾのないものであった。  (課題) 1‘輝太郎’の栽培技術の確立が必要である。 2‘花御所’‘西条’の収集系統について、特性調査を行う。	

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(委)カキ'西条'の生理障害を防止する系統選抜と栽培技術の開発		担当室別	河原試験地
実施計画期間	21年度 ～ 23年度		(予算額) 支出済額	(2,700,000円) 637,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
西条の発芽不良と樹上軟化の少ない系統を選抜する。	河原試験地及び現地ほ場	試験地 34a、現地	1 西条の10系統の中から水田環境に適した樹上軟化の少ない系統を選抜する。	(成果) 1 鳥取県の選抜系統のNo.2と鳥根の遠藤系が他の系統と比較して前期の生理落果が少ないことが分かった。 2 No.2と遠藤系が他の系統と比較して樹上軟化落果が少ないことが分かった。 3 山坂系で発芽不良の発生が見られた。  (課題) 昨年は、一部の系統で着果量が少なかったが、本年度は、すべての系統で十分な着果が見込まれるので、継続調査を行う。
			1 個包装による長期貯蔵に適した系統の選抜。 2 個包装時のドライアイス量によるの出庫後の日持ち性の検討	(成果) 1 着果量の多かったNO2と遠藤系で比較試験を行った。遠藤系よりNO2の方が個包装脱氷後の日持ちがよいことが分かった。 2ドライアイス量は、現行の6%より9%の方が出庫後の日持ちが良かった。  (課題) 昨年は、着果量の多いNO2と遠藤系のみで試験を行ったが、本年度は、すべての系統で十分な着果が見込まれるので、系統間の比較試験を行う。
個包装による長期貯蔵技術を開発する。				

31 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成22年1月31日現在)

事業名	(単)中山間地基幹品目及び土地利用型野菜の栽培法確立		担当室別	日南試験地	
実施計画期間	21年度 25年度		(予算額)	(2,510,000円)	
			支出済額	1,305,200円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
夏秋トマトの高品質多収栽培技術確立	日南試験地	ハウス 7.2a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新品種の栽培特性を調査する。</li> <li>・中位(5~7)段着果安定と裂果軽減を図る方法及び低段密植による9月集中出荷技術を検討する。</li> <li>・未開花苗の定植が生育、収量に及ぼす影響を調査する。</li> </ul>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・'りんか409'は裂果が少なく多収、'桃太郎ギフト'は裂果、花落不良が多く低収となった。</li> <li>・かん水時に液肥を徐々に追肥することで中位段の着果が安定した。</li> <li>・果房被覆により裂果が軽減された。</li> <li>・低段密植栽培は株当たり収量は低い、10a当たり収量では慣行と同等以上の収量となった。</li> <li>・未開花成苗の定植により初期生育が旺盛となる一方、中位段以降の草勢低下が早期に起こり、着果が不安定となった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新品種の検索</li> <li>・中位段着果安定及び裂果軽減</li> </ul>	
夏ネギ前進化と低コスト安定多収技術の確立		ほ場 18a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏ネギの盆前出荷技術の安定化を図る。</li> <li>・作期別高品質多収品種を選定する。</li> <li>・連作障害対策として土壌消毒の効果を確認する</li> </ul>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盆前出荷では、1月は種、苗床施肥量4.8kg/10aで多収となり、品種は'夏扇パワー'が有望であった。</li> <li>・夏どり、秋冬どり作型では'夏扇パワー'が有望と認められた。</li> <li>・バスマイド微粒剤の10~11月処理効果は認められたが、被覆の必要性については判然としなかった。4月処理の効果は高く、被覆によりさらに高まった。3月においても被覆処理により効果が高まった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大苗生産技術の安定化</li> <li>・連作障害対策</li> </ul>	
夏秋ピーマンの安定多収技術の確立		ほ場 2a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高品質多収品種を検索する。</li> <li>・保温等による初期生育促進技術、追肥不要な全量基肥栽培技術を確立する。</li> </ul>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・'京ひかり'は先とがり果が少なく秀品収量が高く有望であった。</li> <li>・ロング肥料を畝内施用すると、施肥量を5割削減しても収量は慣行並で追肥労力の削減も可能となった。</li> <li>・定植後に農ポリトンネルで3週間程度保温すると初期生育が促進され多収となった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新品種の検討</li> <li>・早期収量の増収対策</li> </ul>	
ブロッコリーの作型開発		ほ場 6a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初夏どり作型の有望品種の安定栽培法を確立する</li> </ul>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・'SK3-081'は3月16~30日は種ではいずれも7月上旬収穫となった。</li> <li>・大苗定植により収穫期が前進化し、直置き育苗の効果が高かった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新品種の検討</li> </ul>	
冬春キャベツの安定栽培技術の確立		ほ場 2a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・降霜期結球作型におけるは種期別適品種を検討する</li> </ul>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・'とくみつ'は7月15日は種で11月中下旬収穫となり、低温遭遇により糖度上昇の可能性が示唆された。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高糖度化条件の検索</li> </ul>	

○意見、要望等

(1)業務に関する意見・要望等

特になし

(2)監査委員事務局に対する要望等

特になし